

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

PCT/JP 03/10016

17.09.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2002年 8月 6日

出願番号  
Application Number: 特願2002-228950  
[ST. 10/C]: [JP 2002-228950]

出願人  
Applicant(s): キヤノン株式会社

REC'D 06 NOV 2003

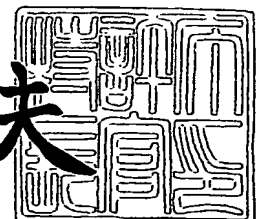
Ver. J PCT

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年10月23日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 4517054

【提出日】 平成14年 8月 6日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/00

【発明の名称】 印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体

【請求項の数】 35

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内

    【氏名】 皆川 智徳

【特許出願人】

    【識別番号】 000001007

    【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100090273

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 國分 孝悦

    【電話番号】 03-3590-8901

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 035493

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 9705348

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項1】 印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御する印刷制御装置であって、

前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化する印刷データ暗号化手段を有することを特徴とする印刷制御装置。

【請求項2】 前記印刷データから特徴量を算出する特徴量算出手段と、

前記特徴量算出手段により算出された特徴量を前記印刷ジョブに含めて前記通信媒体を介して前記指定のプリンタに送信する印刷ジョブ送信手段とをさらに有することを特徴とする請求項1に記載の印刷制御装置。

【請求項3】 前記特徴量は、ハッシュ値またはチェックサムの何れか一方を少なくとも含むことを特徴とする請求項2に記載の印刷制御装置。

【請求項4】 前記印刷データ暗号化手段は、公開鍵暗号法に基づく暗号化処理を行なう公開鍵暗号化手段として機能し、前記公開鍵暗号法に基づいて、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの公開鍵を用いて、前記印刷データを暗号化することを特徴とする請求項1～3の何れか1項に記載の印刷制御装置。

【請求項5】 前記印刷データの印刷が指定されたプリンタと共通の秘密鍵を作成する秘密鍵作成手段と、

前記秘密鍵作成手段により作成された秘密鍵を暗号化する秘密鍵暗号化手段と、

前記秘密鍵暗号化手段により暗号化された秘密鍵を前記印刷ジョブに含めて、前記通信媒体に送信する印刷ジョブ送信手段とをさらに有し、

前記印刷データ暗号化手段は、共通鍵暗号法に基づく暗号化処理を行なう共通鍵暗号化手段として機能し、前記共通鍵暗号法に基づいて前記秘密鍵作成手段に

より作成された秘密鍵で前記印刷データを暗号化し、

前記秘密鍵暗号化手段は、公開鍵暗号法に基づく暗号化処理を行なう公開鍵暗号化手段として機能し、前記公開鍵暗号法に基づく暗号化処理を行ない、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの公開鍵で前記秘密鍵を暗号化することを特徴とする請求項 1 に記載の印刷制御装置。

【請求項 6】 前記特徴量算出手段により算出された特徴量に対して、公開鍵暗号法に基づく暗号化処理を適用して、自身のプライベートキーで暗号化し、デジタル署名を作成するデジタル署名作成手段をさらに有し、

前記印刷ジョブ送信手段は、前記デジタル署名作成手段により作成されたデジタル署名を、前記特徴量算出手段により算出された特徴量の代わりに前記印刷ジョブに含めて前記通信媒体に送信することを特徴とする請求項 2 ～ 4 の何れか 1 項に記載の印刷制御装置。

【請求項 7】 前記プリンタの情報を管理するプリンタ管理サーバに問い合わせ、前記印刷データを印刷するプリンタを選択するプリンタ選択手段と、

前記印刷データを印刷するように指定されたプリンタの情報を前記プリンタ管理サーバから取得するプリンタ情報取得手段とをさらに有することを特徴とする請求項 1 ～ 6 の何れか 1 項に記載の印刷制御装置。

【請求項 8】 前記プリンタ情報取得手段は、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの暗号鍵及びアドレスを前記プリンタ管理サーバから取得し、

前記印刷データ暗号化手段は、前記プリンタ情報取得手段により取得したプリンタの暗号鍵を用いて前記印刷データを暗号化して、前記プリンタ情報取得手段により取得したプリンタのアドレスに直接送信することを特徴とする請求項 7 に記載の印刷制御装置。

【請求項 9】 前記印刷データ暗号化手段は、前記プリンタ管理サーバの暗号鍵を取得して前記印刷データを暗号化し、前記暗号化した印刷データを前記プリンタ管理サーバに送信することを特徴とする請求項 7 または 8 に記載の印刷制御装置。

【請求項 10】 前記プリンタ選択手段が該当するプリンタを選択するために必要な条件を前記プリンタ情報取得手段が前記プリンタ管理サーバに送信する

ことで、前記プリンタ選択手段が該当するプリンタを選択することを特徴とする請求項7～9の何れか1項に記載の印刷制御装置。

【請求項11】 前記プリンタ管理サーバが該当するプリンタを絞り込むために必要な条件を前記プリンタ情報取得手段が前記サーバに送信することで、前記プリンタ管理サーバで該当するプリンタを絞り込ませるようにし、前記該当するプリンタを絞り込んだプリンタ管理サーバと前記プリンタ選択手段とが対話的な通信を行なうことで前記印刷データの印刷を行なうプリンタを選択するようにしたことを特徴とする請求項7～9の何れか1項に記載の印刷制御装置。

【請求項12】 通信媒体を介して受信した印刷ジョブに含まれる暗号化された印刷データを印刷するプリンタであって、

前記印刷データを印刷するように指定された場合にのみ復号化することが可能な復号化方法で、前記暗号化された印刷データを復号化する印刷データ復号化手段と、

前記受信した印刷ジョブから特徴量を取得する特徴量取得手段と、

前記印刷データ復号化手段により復号化された印刷データから特徴量を算出する特徴量算出手段と、

前記特徴量算出手段により算出された特徴量と、前記特徴量取得手段によって取得された特徴量とを比較し、両者が一致していることを確かめることで、前記受信した暗号化されている印刷データに破損や改ざんが無いことを確認する印刷データ確認手段とを有することを特徴とするプリンタ。

【請求項13】 前記印刷データ復号化手段は、公開暗号法に基づく復号化処理を行なう公開鍵復号化手段として機能し、前記復号化処理を適用して、前記受信した暗号化されている印刷データを、自身のプライベートキーを用いて復号化して、前記印刷データを取得することを特徴とする請求項12に記載のプリンタ。

【請求項14】 前記受信した印刷ジョブから、暗号化された秘密鍵を取り出す秘密鍵取り出し手段と、

前記秘密鍵取り出し手段により取り出された暗号化された秘密鍵に対し、公開鍵復号法に基づく復号化処理を行なって自身のプライベートキーで復号化して秘

密鍵を取得する秘密鍵取得手段とを有し、

前記印刷データ復号化手段は、共通鍵暗号法に基づく復号化処理を行なう共通鍵復号化手段として機能し、前記共通鍵暗号法を適用して、前記暗号化されている印刷データを前記秘密鍵で復号化して印刷データを取得することを特徴とする請求項12または13に記載のプリンタ。

【請求項15】 前記前記受信した印刷ジョブから、デジタル署名を取り出すデジタル署名取り出し手段を有し、

前記特徴量取得手段は、前記デジタル署名取り出し手段により取り出したデジタル署名を、前記印刷ジョブの送信元の公開鍵を用いて公開鍵復号法に基づき復号化して特徴量を取得し、

前記印刷データ確認手段は、前記印刷データ復号化手段により復号化した印刷データから算出した特徴量と、前記特徴量取得手段によって取得した特徴量とを比較し、両者が一致していることを確かめることで、送信元が特定のプリンタドライバであり、且つ前記受信した暗号化されている印刷データに破損や改ざんが無いことを確認することを特徴とする請求項12～14の何れか1項に記載のプリンタ。

【請求項16】 通信媒体を介して接続されたプリンタの情報を管理するプリンタ管理サーバであって、

前記通信媒体を介して接続された使用可能なプリンタの設置位置や能力、及び各プリンタの暗号鍵を含む情報の一覧を所持する情報所持手段と、

前記プリンタの印刷制御を行なう印刷制御装置からの問合せに応じて、前記情報所持手段により所持されている情報の一覧を参照して、印刷データの印刷を行なうのに適したプリンタを選択するプリンタ選択手段と、

前記印刷制御装置からの問合せに応じて、前記プリンタ選択手段により選択されたプリンタの暗号鍵やアドレス情報を取得するプリンタ情報取得手段と、

前記印刷制御装置から受信した暗号化された印刷データを、前記情報所持手段により所持されている暗号鍵で復号化し、さらに、前記復号化した印刷データを前記プリンタ情報取得手段により取得したプリンタの暗号鍵で再度暗号化し、前記再度暗号化した印刷データを、前記プリンタ情報取得手段により取得したアド

レスに送信するプリンタ情報送信手段とを有することを特徴とするプリンタ管理サーバ。

【請求項 17】 前記請求項 1～11 の何れか 1 項に記載の印刷制御装置と、前記請求項 12～15 の何れか 1 項に記載のプリンタと、前記請求項 16 に記載のプリンタ管理サーバとを有することを特徴とする印刷処理システム。

【請求項 18】 印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御する印刷制御方法であって、

前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化する印刷データ暗号化処理を行なうことを特徴とする印刷制御方法。

【請求項 19】 前記印刷データから特徴量を算出する特徴量算出処理と、前記特徴量算出処理により算出された特徴量を前記印刷ジョブに含めて前記通信媒体を介して前記指定のプリンタに送信する印刷ジョブ送信処理とをさらに行なうことを特徴とする請求項 18 に記載の印刷制御方法。

【請求項 20】 前記印刷データ暗号化処理は、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの公開鍵を用いて、公開鍵暗号法に基づく暗号化処理である公開鍵暗号化処理を行なって、前記印刷データを暗号化することを特徴とする請求項 18 または 19 に記載の印刷制御方法。

【請求項 21】 前記印刷データの印刷が指定されたプリンタと共通の秘密鍵を作成する秘密鍵作成処理と、

前記秘密鍵作成処理により作成された秘密鍵を暗号化する秘密鍵暗号化処理と、

前記秘密鍵暗号化処理により暗号化された秘密鍵を前記印刷ジョブに含めて、前記通信媒体に送信する印刷ジョブ送信処理とをさらに行ない、

前記印刷データ暗号化処理は、前記秘密鍵作成処理により作成された秘密鍵を用いて、共通鍵暗号法に基づく暗号化処理である共通鍵暗号化処理を行なって、前記印刷データを暗号化し、

前記秘密鍵暗号化処理は、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの公開



鍵を用いて、公開鍵暗号法に基づく暗号化処理である公開鍵暗号化処理を行なって、前記秘密鍵を暗号化することを特徴とする請求項18に記載の印刷制御方法。

【請求項22】 前記特徴量算出処理により算出された特徴量に対して、プライベートキーを用いて公開鍵暗号法に基づく暗号化処理を行なって暗号化し、デジタル署名を作成するデジタル署名作成処理をさらに行ない、

前記印刷ジョブ送信処理は、前記デジタル署名作成処理により作成されたデジタル署名を、前記特徴量算出処理により算出された特徴量の代わりに前記印刷ジョブに含めて前記通信媒体に送信することを特徴とする請求項19または20に記載の印刷制御方法。

【請求項23】 前記プリンタの情報を管理するプリンタ管理サーバに問い合わせ、前記印刷データを印刷するプリンタを選択するプリンタ選択処理と、

前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの情報を前記プリンタ管理サーバから取得するプリンタ情報取得処理とをさらに行なうことを特徴とする請求項18～22の何れか1項に記載の印刷制御方法。

【請求項24】 前記プリンタ情報取得処理は、前記印刷データの印刷が指定されたプリンタの暗号鍵やアドレスを前記プリンタ管理サーバから取得し、

前記印刷データ暗号化処理は、前記プリンタ情報取得処理により取得したプリンタの暗号鍵を用いて前記印刷データを暗号化して、前記プリンタ情報取得処理により取得したプリンタのアドレスに、前記暗号化した印刷データを直接送信することを特徴とする請求項23に記載の印刷制御方法。

【請求項25】 前記印刷データ暗号化処理は、前記プリンタ管理サーバの暗号鍵を取得して前記印刷データを暗号化し、前記暗号化した印刷データを前記プリンタ管理サーバに送信することを特徴とする請求項23に記載の印刷制御方法。

【請求項26】 前記プリンタ選択処理で該当するプリンタを選択するために必要な条件を、前記プリンタ情報取得処理で前記プリンタ管理サーバに送信することで、前記プリンタ選択処理により該当するプリンタを選択することを特徴とする請求項23～25の何れか1項に記載の印刷制御方法。

【請求項 27】 前記プリンタ管理サーバで該当するプリンタを絞り込むために必要な条件を、前記プリンタ情報取得処理で前記プリンタ管理サーバに送信することで、前記プリンタ管理サーバで該当するプリンタを絞り込ませるようにし、前記プリンタ選択処理で、前記該当するプリンタを絞り込んだプリンタ管理サーバと対話的な通信を行なうことで前記印刷データの印刷を行なうプリンタを選択するようにしたことを特徴とする請求項 23～25 の何れか 1 項に記載の印刷制御方法。

【請求項 28】 前記印刷データ暗号化処理により暗号化された印刷データを含む印刷ジョブを受信して、前記暗号化された印刷データを復号化する印刷データ復号化処理をさらに行なうことを特徴とする請求項 18～27 の何れか 1 項に記載の印刷制御方法。

【請求項 29】 前記受信した印刷ジョブから特徴量を取得する特徴量取得処理と、

前記印刷データ復号化処理により復号化された印刷データから特徴量を算出する特徴量算出処理と、

前記特徴量算出処理により算出された特徴量と、前記特徴量取得処理によって取得された特徴量とを比較し、両者が一致していることを確かめることで、前記受信した暗号化されている印刷データに破損や改ざんが無いことを確認する印刷データ確認処理とをさらに行なうことを特徴とする請求項 28 に記載の印刷制御方法。

【請求項 30】 前記印刷データ復号化処理は、プライベートキーを用いて公開暗号法に基づく復号化処理である公開鍵復号化処理を行なって、前記受信した暗号化されている印刷データを復号化し、前記印刷データを取得することを特徴とする請求項 28 または 29 に記載の印刷制御方法。

【請求項 31】 前記受信した印刷ジョブから、暗号化された秘密鍵を取り出す秘密鍵取り出し処理と、

前記秘密鍵取り出し処理により取り出した暗号化された秘密鍵に対し、公開鍵復号法に基づく復号化処理を行なって自身のプライベートキーで復号化し、秘密鍵を取得する秘密鍵取得処理とを行ない、

前記印刷データ復号化処理は、共通鍵暗号法に基づく復号化処理である共通鍵復号化処理行なって、前記暗号化されている印刷データを前記秘密鍵で復号化し、印刷データを取得することを特徴とする請求項29または30に記載の印刷制御方法。

【請求項32】 前記前記受信した印刷ジョブから、デジタル署名を取り出すデジタル署名取り出し処理を行ない、

前記特徴量取得処理は、前記デジタル署名取り出し処理により取り出したデジタル署名を、前記印刷ジョブの送信元の公開鍵を用いて公開鍵復号法に基づき復号化して特徴量を取得し、

前記印刷データ確認処理は、前記印刷データ復号化処理により復号化した印刷データから算出した特徴量と、前記特徴量取得処理によって取得した特徴量とを比較し、両者一致していることを確かめることで、送信元が特定のプリンタドライバであり、且つ前記受信した暗号化されている印刷データに破損や改ざんが無いことを確認することを特徴とする請求項29～31の何れか1項に記載の印刷制御方法。

【請求項33】 前記通信媒体を介して接続された使用可能なプリンタの設置位置や能力、及び各プリンタの暗号鍵を含む情報の一覧を所持する情報所持処理と、

前記プリンタの印刷制御を行なう印刷制御装置からの問合せに応じて、前記情報所持処理により所持されている情報の一覧を参照して、印刷データの印刷を行なうのに適したプリンタを選択する選択処理と、

前記印刷制御装置からの問合せに応じて、前記選択処理により選択されたプリンタの暗号鍵やアドレス情報を取得する情報取得処理と、

前記印刷制御装置から受信した暗号化された印刷データを、前記情報所持処理により所持されている暗号鍵で復号化し、さらに、前記復号化した印刷データを前記情報取得処理により取得したプリンタの暗号鍵で再度暗号化し、前記再度暗号化した印刷データを、前記情報取得処理により取得したプリンタのアドレスに送信するプリンタ情報送信処理とを行なうことを特徴とする請求項18～32の何れか1項に記載の印刷制御方法。

【請求項 34】 印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御するに際し、前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化する印刷データ暗号化処理をコンピュータに実行させることを特徴とするコンピュータプログラム。

【請求項 35】 前記請求項 34 に記載のコンピュータプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体に関し、特に、インターネットやネットワークなどの通信媒体を経由して印刷データの印刷を行なうために用いて好適なものである。

【0002】

【従来の技術】

従来からホストコンピュータからプリンタに印刷を行なう際の手法として、ホストコンピュータとプリンタとをケーブルで直接つなぐスタンドアローン接続と、ホストコンピュータとプリンタとを、ネットワークを介してつなぐネットワーク接続を行なって離れた場所にあるプリンタを利用するネットワーク接続とがある。

【0003】

これらの手法のうち、前記ネットワーク接続を行なってネットワーク経由で印刷するネットワーク印刷では、ネットワーク（インターネット）でつながった先のプリンタにも印刷することができるという利点を有している。そして、前記ネットワーク印刷では、大型の高速プリンタや高価なカラープリンタを複数の端末装置で共有したり、前述したように離れた場所にあるプリンタを利用して印刷したりすることができるという利点も有している。これらの利点を有していることから、近年ネットワーク印刷の利用が爆発的に増えている。

## 【0004】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、ネットワークやインターネットは不特定多数の人間が利用しており、その気になれば前記ネットワークやインターネットに流れている印刷データを第三者が容易に盗み見ることができる。

## 【0005】

例えば、有価証券や社外秘情報などの重要なデータをインターネットの先につながっている顧客先で印刷したり、外出先の営業マンが最寄りのプリンタに印刷したりするようなケースでは、印刷データが盗み取られたり、印刷データがプリンタに届くまでに改ざんされたり、プリンタドライバが指定したプリンタと異なるプリンタに印刷データが印刷されてしまったりしては非常に困ることになる。

## 【0006】

ところが、従来の技術では、ネットワークやインターネットなどの通信媒体を経由して印刷を行なう際に、印刷データが盗み取られると、前記盗み取られた印刷データが第三者に利用されてしまうという問題点があった。

## 【0007】

本発明は前記の問題点に鑑みてなされたもので、ネットワークやインターネットなどの通信媒体を経由して印刷を行なう際に、たとえ印刷データが盗み取られたとしても、前記盗み取られた印刷データが第三者に利用されてしまうことを可及的に防止することができるようにすることを第1の目的とする。

また、ネットワークやインターネットなどの通信媒体を経由して印刷を行なう際に、印刷データが盗み取られて改ざんされた場合にはそれを検知して誤った印刷を防止するようにすることを第2の目的とする。

## 【0008】

## 【課題を解決するための手段】

本発明の印刷制御装置は、印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御する印刷制御装置であって、前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化す

る印刷データ暗号化手段を有することを特徴としている。

#### 【0009】

本発明のプリンタは、通信媒体を介して受信した印刷ジョブに含まれる暗号化された印刷データを印刷するプリンタであって、前記印刷データを印刷するように指定された場合にのみ復号化することが可能な復号化方法で、前記暗号化された印刷データを復号化する印刷データ復号化手段と、前記受信した印刷ジョブから特徴量を取得する特徴量取得手段と、前記印刷データ復号化手段により復号化された印刷データから特徴量を算出する特徴量算出手段と、前記特徴量算出手段により算出された特徴量と、前記特徴量取得手段によって取得された特徴量とを比較し、両者が一致していることを確かめることで、前記受信した暗号化されている印刷データに破損や改ざんが無いことを確認する印刷データ確認手段とを有することを特徴としている。

#### 【0010】

本発明のプリンタ管理サーバは、通信媒体を介して接続されたプリンタの情報を管理するプリンタ管理サーバであって、前記通信媒体を介して接続された使用可能なプリンタの設置位置や能力、及び各プリンタの暗号鍵を含む情報の一覧を所持する情報所持手段と、前記プリンタの印刷制御を行なう印刷制御装置からの問合せに応じて、前記情報所持手段により所持されている情報の一覧を参照して、印刷データの印刷を行なうのに適したプリンタを選択するプリンタ選択手段と、前記印刷制御装置からの問合せに応じて、前記プリンタ選択手段により選択されたプリンタの暗号鍵やアドレス情報を取得するプリンタ情報取得手段と、前記印刷制御装置から受信した暗号化された印刷データを、前記情報所持手段により所持されている暗号鍵で復号化し、さらに、前記復号化した印刷データを前記プリンタ情報取得手段により取得したプリンタの暗号鍵で再度暗号化し、前記再度暗号化した印刷データを、前記プリンタ情報取得手段により取得したアドレスに送信するプリンタ情報送信手段とを有することを特徴としている。

#### 【0011】

本発明の印刷処理システムは、前記何れかに記載の印刷制御装置と、前記何れかに記載のプリンタと、前記何れかに記載のプリンタ管理サーバとを有すること

を特徴としている。

#### 【0012】

本発明の印刷制御方法は、印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御する印刷制御方法であって、前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化する印刷データ暗号化処理を行なうことを特徴としている。

#### 【0013】

本発明のコンピュータプログラムは、印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御するに際し、前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化する印刷データ暗号化処理をコンピュータに実行させることを特徴としている。

#### 【0014】

本発明のコンピュータ読み取り可能な記録媒体は、前記記載のコンピュータプログラムを記録したことを特徴としている。

#### 【0015】

##### 【発明の実施の形態】

##### （第1の実施の形態）

以下、添付の図面を参照しながら本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第1の実施の形態について説明を行なう。

#### 【0016】

図1は、本発明の第1の実施形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示した概念図である。

本実施の形態では、ユーザは印刷制御装置として配設されるホストコンピュータ3000から印刷指示の操作を行ない、ネットワーク（LAN）100上で共有されているネットワークプリンタ1500aや、インターネット200を介して接続されているインターネットプリンタ1500bに印刷を行なうケースを想

定する。

【0017】

図2は、本発明の第1の実施の形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示したブロック図である。

なお、特に断らない限り、ホストコンピュータ3000とプリンタ1500（ネットワークプリンタ1500a及びインターネットプリンタ1500b）とを接続する形態は、LAN、WAN、公衆回線、及びインターネット等いかなる形態（通信媒体）であっても適用することができる。

【0018】

図2において、3000はホストコンピュータであり、ROM3のプログラム用ROMあるいは外部メモリ11に記憶された文書処理プログラム等に基づいて図形、イメージ、文字、及び表（表計算等を含む）等が混在した文書処理を実行するCPU1を備え、システムバス4に接続される各デバイス2～8をCPU1が総括的に制御する構成である。

【0019】

また、このROM3のプログラム用ROM3bあるいは外部メモリ11には、CPU1の制御プログラムであるオペレーティングシステムプログラム（OS）等を記憶する。そして、ROM3のフォント用ROM3aあるいは外部メモリ11には前記文書処理の際に使用するフォントデータ等を記憶する。さらに、ROM3のデータ用ROM3cあるいは外部メモリ11には前記文書処理等を行なう際に使用する各種データを記憶する。

【0020】

2はRAMで、CPU1の主メモリ、ワークエリア等として機能する。

5はキーボードコントローラ（KBC）で、キーボード9や不図示のポインティングデバイスからのキー入力を制御する。

6はCRTコントローラ（CRTC）で、CRTディスプレイ（CRT）10の表示を制御する。

【0021】

7はディスクコントローラ（DKC）で、ブートプログラム、各種のアプリケ



ーション、フォントデータ、ユーザファイル、編集ファイル、及びプリンタ制御コマンド生成プログラム（以下プリンタドライバと称する）等を記憶するハードディスク（HD）や、フレキシブルディスク（FD）等の外部メモリ11とのアクセスを制御する。

#### 【0022】

8はプリンタコントローラ（PRTC）で、ネットワーク100を介してプリンタ1500に接続されて、プリンタ1500との双方向通信制御処理を実行する。なお、このプリンタコントローラ8は、印刷ジョブをプリンタ1500に送信する際に、接続プロトコルに応じたコマンドを前記印刷ジョブに付加する場合もある。また、前記コマンドはオペレーティングシステムプログラム（OS）が自動的に付加する場合もある。

#### 【0023】

なお、CPU1は、例えばRAM2上に設定された表示情報RAMへのアウトラインフォントの展開（ラスタライズ）処理を実行し、CRT10上でのウィジウィグ（WYSIWYG）を可能としている。

#### 【0024】

また、CPU1は、CRT10上の不図示のマウスカーソル等で指示されたコマンドに基づいて登録された種々のウインドウを開き、種々のデータ処理を実行する。ユーザは印刷を実行する際に、印刷の設定に関するウインドウを開く。そして、前記開いたウインドウを用いてプリンタの設定や、印刷モードの選択などを含むプリンタドライバに対する印刷処理の設定を行なう。

#### 【0025】

プリンタ1500において、12はプリンタCPUで、ROM14のプログラムROMに記憶された制御プログラム等、あるいは外部メモリ21に記憶された制御プログラム等に基づいて、システムバス15に接続される印刷部インターフェース（印刷部I/F）16を介して印刷部（プリンタエンジン）17に出力情報としての画像信号を出力する機能を有する。

#### 【0026】

また、このROM14のプログラムROMに14bは、CPU12の制御プロ

グラム等を記憶する。また、ROM14のフォント用ROM14aは、前記出力情報を生成する際に使用するフォントデータ等を記憶する。そして、ROM14のデータ用ROM14cは、ハードディスク等の外部メモリ21がないプリンタの場合に、ホストコンピュータ3000上で利用される情報等を記憶する。

#### 【0027】

CPU12は入力部18を介してホストコンピュータ3000との通信処理が可能となっており、プリンタ1500内の情報等をホストコンピュータ3000に通知することが可能となるように構成されている。

#### 【0028】

プリンタドライバから受信したデータはRAM13に格納され、制御プログラムにより画像信号に変換される。なお、通信プロトコルに応じて付加されているコマンドの解釈も前記制御プログラムにより行なわれる。

#### 【0029】

RAM13はCPU12の主メモリやワークエリア等として機能する記録媒体であり、図示しない増設ポートに接続されるオプションRAMによりメモリ容量を拡張することができるように構成されている。なお、RAM13は、出力情報展開領域、環境データ格納領域、NVRAM(不揮発性RAM)等に用いられる。

#### 【0030】

前述したハードディスク(HD)や、ICカード等の外部メモリ21は、メモリコントローラ(MC)20によりアクセスを制御される。外部メモリ21は、オプションとして接続され、フォントデータ、エミュレーションプログラム、及びフォームデータ等を記憶する。

#### 【0031】

また、22は前述した操作パネルで、操作のためのスイッチやLED表示器、液晶パネル等が配設されている。また、前述した外部メモリ21は1個に限らず、少なくとも1個以上備えているようにしてもよい。そして、内蔵フォントに加えてオプションフォントカードや、言語系の異なるプリンタ制御言語を解釈するプログラムを格納した外部メモリを複数接続することができるように構成されていてもよい。さらに、図示しないNVRAMを有し、操作パネル22からのプリ

ンタモード設定情報を記憶するようにしてもよい。

#### 【0032】

図3(a)に示すのが、本実施の形態のホストコンピュータ3000のプログラムROM3bに記憶されている制御プログラムが、ホストコンピュータ3000上のRAM2にロードされ実行可能となった状態のメモリマップである。

#### 【0033】

本実施の形態のホストコンピュータ3000で使用する暗号化処理やデータ特徴量算出関数等は、印刷処理関連プログラム304の一部として存在する。また、印刷が指定されたプリンタのパブリックキー（公開鍵）やプリンタドライバ自身のプライベートキー（秘密鍵）は関連データ303の一部として存在する。

#### 【0034】

図3(b)に示すのが、本実施の形態のプリンタ1500のプログラムROM14bに記憶されている制御プログラムが、プリンタ1500上のRAM13にロードされ実行可能となった状態のメモリマップである。

本実施の形態のプリンタ1500で使用する復号化処理やデータ特徴量算出関数等は、印刷処理関連プログラム313の一部として存在する。また、特定プリンタドライバのパブリックキーやプリンタ自身のプライベートキーは関連データ312の一部として存在する。

#### 【0035】

図4は、本実施の形態の印刷処理システム（図5以降のフロー図）で用いる暗号鍵を説明する図である。本実施の形態では、暗号法として公開鍵暗号法と共通鍵暗号法を用いており、また、各情報機器でパブリックキーとプライベートキーが存在するため、図4ではそれぞれの鍵を区別して表現している。

また、図4において、データに鍵がオーバーライドされている絵は、そのデータが該当する鍵で暗号化されていることを示している。

#### 【0036】

本実施の形態の印刷処理システムでは、公開鍵暗号法を用いて暗号化した印刷データを送信することで、指定したプリンタ以外では印刷できない仕組みとなっている。

なお公開鍵暗号法とは、自分と相手に違う暗号鍵（プライベートキーとパブリックキー）を用いて暗号化と復号化を行なう方法であり、どちらか一方の鍵で暗号化したデータはもう一方の鍵を使わないと復号化できない。

#### 【0037】

この公開鍵暗号法では、通常、パブリックキーは公開し、プライベートキーは秘密に保持する。公開鍵暗号法では通信相手ごとに暗号鍵を用意する必要がなく、パブリックキーは公開することができるので相手に暗号鍵を渡すのが非常に楽でありながら、復号化することができるのは自分だけに限定することができる。

#### 【0038】

この公開鍵暗号法を例えば本実施の形態のプリンタ1500に適用すると、公開されているプリンタのパブリックキーで印刷データを暗号化しておけば、どのプリンタドライバから印刷データを送信した場合であっても、送信先のプリンタでのみ印刷することが可能であり、他のプリンタでは印刷できないように制限することが可能となる。

#### 【0039】

以下、図5に示す処理フロー図を用いて、プリンタドライバが暗号化された印刷ジョブを作成する処理を詳しく説明する。

ホストコンピュータ3000のプリンタドライバは、アプリケーションから印刷要求を受けて印刷データを受け取ると、その印刷データを送信先のプリンタ1500のパブリックキーで暗号化する（ステップS501）。

#### 【0040】

その後、暗号化された印刷データを印刷ジョブとしてプリンタ1500に送信する。

なお、プリンタ1500のパブリックキーは公開されており、前記プリンタドライバは出力対象となるプリンタ1500のパブリックキーを選択して適用する。

#### 【0041】

以下、図6に示す処理フロー図を用いて、プリンタ1500が受信した印刷ジョブから印刷データを取得する処理を詳しく説明する。

プリンタ1500は、受信した印刷ジョブ中の印刷データをプリンタ1500のプライベートキーで復号化し（ステップS601）、印刷データを取得する。

【0042】

なお、前述したように、プリンタ1500のプライベートキーは、そのプリンタ1500が非公開で保持している。

ここで指定外のプリンタで印刷データを印刷しようとした場合、前記印刷データは暗号化されているためそのままでは解読も印刷も不可能である。また、暗号を解除する鍵は指定されたプリンタ1500のみが持つため、他のプリンタでは復号化を行なうこともできない。したがって、本実施の形態の印刷処理システムでは、たとえネットワーク100上で印刷データを盗み取られたとしても、その印刷データを他のプリンタで印刷されてしまうことを防止することができる。

【0043】

なお、プリンタドライバ特有の暗号鍵は、ユーザが任意の方法で決定しても良いし、ユーザ名やログオン時のパスワード等から求めても良い。

また、暗号鍵は、プリンタドライバに特有なものに限らず、ホストコンピュータ3000特有にしても良いし、使用しているユーザ特有にしても良い。

【0044】

例えば、暗号鍵をホストコンピュータ3000特有にした場合は、そのホストコンピュータ3000をマルチユーザ形態で利用するようにすれば、そのホストコンピュータ3000上の誰もが同じ条件で印刷データをプリンタ1500で印刷することができる。

【0045】

また、暗号鍵をユーザ特有にした場合は、社内のデスクトップパソコン（PC）から印刷しても、営業先のノートパソコン（PC）から印刷しても同じ条件で印刷データを印刷することができる。

【0046】

このように、暗号鍵をプリンタドライバ特有にした場合、ホストコンピュータ3000特有にした場合、及びユーザ特有にした場合のいずれの場合であっても、あらかじめプリンタへ登録しておくパブリックキーはひとつで済む。

## 【0047】

## (第2の実施の形態)

次に、本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第2の実施の形態について説明する。なお、本実施の形態の印刷処理システムのハードウェアの構成は、前述した第1の実施の形態と同様の構成である。したがって、前述した第1の実施の形態と同一部分については図1～図6に示した符号と同一の符号を付し詳細な説明を省略する。

## 【0048】

前記第1の実施形態では、たとえ印刷データを盗み取られても他のプリンタへ印刷することを防ぐ印刷処理システムについて説明した。

## 【0049】

しかしながら、プリンタ1500のパブリックキーは公開されている。このため、例えば何者かがオリジナルの印刷データをフックして異なる印刷データを、図5に示した処理と同様のステップを経て対象とするプリンタ1500に流し直した場合などには、プリンタ1500側でそれが改ざんされた印刷データであるかどうかを判断することができない。このようなことは、例えば印刷データが見積書や有価証券の場合などでは非常に大きな問題になる虞がある。

## 【0050】

そこで本実施の形態の印刷処理では、印刷データにデジタル署名をつけたものを印刷ジョブとしてプリンタに送ることで、プリンタ本体で印刷データの改ざんの有無を確認することができるようにする仕組みにしている。

## 【0051】

なお、デジタル署名とは、印刷データの内容の特徴量を算出したものをホストコンピュータ3000のプリンタドライバのプライベートキーで暗号化したものである。プリンタは、特定のプリンタドライバのパブリックキーを内蔵しており、それを用いてデジタル署名を復号化して確認する。

## 【0052】

また、前記印刷データの内容の特徴量としては、ハッシュ値やチェックサム等

を用いる。ハッシュ値とは、ハッシュ関数から算出される値であり、ハッシュ関数は計算結果から元の値を求めたり、同じハッシュ値になるように改ざんしたりするのが困難な関数である。

#### 【0053】

以下、図7に示す処理フロー図を用いて、本実施の形態のホストコンピュータのプリンタドライバが暗号化された印刷ジョブを作成する処理を詳しく説明する。

#### 【0054】

ホストコンピュータのプリンタドライバは、アプリケーションから印刷要求を受けて印刷データを受け取ると、その印刷データを送信先のプリンタのパブリックキーで暗号化する（ステップS701）。

#### 【0055】

次に、暗号化する前の元の印刷データから特徴量算出関数を通して特徴量を算出し（ステップS702）、前記特徴量をプリンタドライバのプライベートキーで暗号化する（ステップS703）。ここで得られたものがデジタル署名となる。その後、ホストコンピュータは、前記暗号化された印刷データとデジタル署名とを合わせたものを印刷ジョブとして、前記印刷データを印刷するプリンタに送信する。

#### 【0056】

以下、図8に示す処理フロー図を用いて、本実施の形態のプリンタが受信した印刷ジョブから印刷データを取得する処理を詳しく説明する。

#### 【0057】

プリンタは、受信した印刷ジョブ中の印刷データをプリンタのプライベートキーで復号化し（ステップS801）、印刷データを取得する。また、印刷ジョブ中のデジタル署名を、送信元のプリンタドライバのパブリックキーで復号化し（ステップS802）、前記取得した印刷データの特徴量を取得する。

#### 【0058】

そして、取得した印刷データから、プリンタ本体でも特徴量取得関数により特徴量を算出し（ステップS803）、それを受信した印刷データの特徴量と比較

し（ステップS804）、同一値であればステップS801で取得した印刷データに改ざんがないことが確かめられる。

#### 【0059】

また、ステップS804の処理において、プリンタ本体で算出した特徴量と受信した印刷データの特徴量との比較結果が不一致だった場合は次のような状態になることが考えられる。

すなわち、特定のプリンタドライバのパブリックキーで復号化することできず、前記受信した印刷データの送信元が正規のホストコンピュータと異なる場合と、算出した印刷データの特徴量が前記受信した印刷データの特徴量とが異なり、印刷データに改ざんがある場合とが考えられ、いずれの場合でも印刷ジョブが正しく送信されていないことを検知できる。

#### 【0060】

このように本実施の形態の印刷処理システムでは、不正な印刷データをプリンタで検出することが可能になる。なお、このように不正な印刷データを検出した場合は、検出後不正な印刷データの出力は行なわず、不正な印刷データを受け取ったことをホストコンピュータに通知するなどの対処を行なうことが可能となる。

#### 【0061】

なお、本実施の形態では、プリンタ本体でもプリンタドライバと共通の特徴量算出関数を持っている。また、プリンタ本体には、あらかじめ特定のプリンタドライバ（またはホストコンピュータ）のパブリックキーを登録しておくものとする。

#### 【0062】

##### （第3の実施の形態）

次に、本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第3の実施の形態について説明する。なお、本実施の形態の印刷処理システムのハードウェアの構成は、前述した第1の実施の形態及び第2の実施の形態と同様の構成である。したがって、前述した第1の実施の形態及び第2の実



施の形態と同一部分については図1～図8に付した符号と同一の符号を付し詳細な説明を省略する。

#### 【0063】

前記第1の実施の形態と第2の実施の形態では、印刷データが盗み取られたり、前記盗み取られた印刷データが改ざんされたりすることを防止し、印刷データに対するセキュリティを強化して印刷する場合について説明した。

#### 【0064】

しかしながら、前述した公開鍵暗号法に基づく印刷データの暗号化及び復号化は、非常に処理時間がかかるため、一般に大きなサイズとなる印刷データに適用するのは好ましくない。

#### 【0065】

そこで、本実施の形態では、公開鍵暗号法と比べて圧倒的にパフォーマンスの高い（処理時間が短い）共通鍵暗号法を適用した形態について説明する。

#### 【0066】

ここで、共通鍵暗号法とは、自分と相手が同じ暗号鍵（シークレットキー）を使って暗号化と復号化を行なう方法である。具体的には、文章のビット列を、シークレットキーで示される規則に従って、別のビット列に置き換えたり、シフトしたりすることでデータを暗号化する。

#### 【0067】

素数同士をかけた値が十分大きい場合に素因数分解することが難しいという性質や、ある値を入力した楕円曲線上の点からその値を推定することが難しいという性質などが利用される公開鍵暗号法の複雑な処理と比べ、共通化暗号法の処理は一般に数百倍速いといわれている。

#### 【0068】

しかしながら、その一方で、通信相手ごとに安全な方法でシークレットキーを渡す必要があり、また通信相手ごとにシークレットキーを用意する必要がある。

#### 【0069】

そこで本実施の形態では、公開鍵暗号法と共通鍵暗号法とを組合せ、印刷データはシークレットキーで暗号化し、そのシークレットキーは公開鍵暗号を使って

プリンタに渡すようにしている。

#### 【0070】

以下、図9に示す処理フロー図を用いて、プリンタドライバが暗号化された印刷ジョブを作成する処理を詳しく説明する。

#### 【0071】

ホストコンピュータのプリンタドライバは、アプリケーションから印刷要求を受けて印刷データを受け取ると、まずシークレットキーを作成し（ステップS901）、作成したシークレットキーで渡された印刷データを暗号化する（ステップS902）。また作成したシークレットキーは、プリンタのパブリックキーで暗号化する（ステップS903）。

#### 【0072】

次に、暗号化する前の元の印刷データから特徴量算出関数を通して特徴量を算出し（ステップS904）、前記特徴量をプリンタドライバのプライベートキーで暗号化する（ステップS905）。ここで得られたものがデジタル署名となる。

#### 【0073】

その後、ホストコンピュータは、前記シークレットキーで暗号化された印刷データ、プリンタのパブリックキーで暗号化されたシークレットキー、及びデジタル署名を合わせたものを印刷ジョブとしてプリンタに送信する。

#### 【0074】

以下、図10に示す処理フロー図を用いて、プリンタが受信した印刷ジョブから印刷データを取得する処理を詳しく説明する。

#### 【0075】

プリンタは、受信した印刷ジョブ中のシークレットキーをプリンタのプライベートキーで復号化し（ステップS1001）、前記印刷ジョブ中のシークレットキーを取得する。

#### 【0076】

次に、前記印刷ジョブ中の印刷データを、前記取得した（復元した）シークレットキーで復号化し（ステップS1002）、印刷データを取得する。

## 【0077】

また、前記印刷ジョブ中のデジタル署名を、送信元のプリンタドライバのパブリックキーで復号化し（ステップS1003）、印刷データの特徴量を取得する。

## 【0078】

そして、取得した印刷データから、プリンタ本体でも特徴量取得関数により特徴量を算出し（ステップS1004）、算出した特徴量と前記受信した印刷データの特徴量とを比較し（ステップS1005）、各特徴量が同一値であればステップS1002で取得した印刷データに改ざんがないことが確かめられる。

## 【0079】

このように、本実施形態では、時間のかかる公開鍵暗号はシークレットキーの暗号化及び復号化でしか利用せず、ネットワークやインターネットに接続されている複数のプリンタごとにシークレットキーを管理する必要がある。また、ホストコンピュータは、プリンタと通信するごとにシークレットキーを変更することができるので、プリンタに送信する印刷データに対する安全性も高くなる。

## 【0080】

（第4の実施の形態）

次に、本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第4の実施の形態について説明する。

## 【0081】

前述した第1～第3の実施の形態では、指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な手段で印刷データを暗号化することで、前記印刷データの横取りを防ぐ手法や、デジタル署名（印刷データの特徴量を送信元が自身のプライベートキーで暗号化したもので、送信元のパブリックキーで復号化して内容を確認することでデータの改ざんを検出できる）を印刷データに付加することで印刷データの改ざんを防ぐ手法などについて説明した。

## 【0082】

しかしながら、前述した第1～第3の実施の形態で説明した手法だと、ホスト

コンピュータ（またはプリンタドライバ）は指定可能なすべてのプリンタのパブリックキーを知っておく必要がある。また同様に、プリンタ本体にもすべてのプリンタドライバのパブリックキーを登録しておかなければならない。

#### 【0083】

したがって、ホストコンピュータもプリンタも複数利用することが可能な大規模な印刷処理システムでは、それらの情報の登録やメンテナンスには莫大な労力を要する。

#### 【0084】

そこで、本実施の形態では、前述した第1～第3の実施の形態で説明した印刷処理システムにおけるインターネットやネットワーク上での安全な印刷データ送信の仕組みは踏襲しつつ、その処理に必要なプリンタのパブリックキー等の情報はプリンタ管理サーバが一括管理し、プリンタドライバはプリンタ管理サーバから必要な情報を取得することで個々のプリンタの情報を管理する必要をなくす印刷処理システムについて説明する。

#### 【0085】

このように、本実施の形態の印刷処理システムにおけるハードウェアの構成は、第1～第3の実施の形態で説明した印刷処理システムにプリンタ管理サーバを付加した構成である。したがって、第1～第3の実施の形態と同一部分には、図1～図3に付した符号と同一の符号を付して詳細な説明を省略する。

#### 【0086】

図11は、本発明の第4の実施形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示した概念図である。

ユーザはホストコンピュータ3000から印刷指示の操作を行ない、ネットワーク（LAN）100上で共有されているネットワークプリンタ1500aや、インターネット200を介して接続されているプリンタ1500bに印刷を行なうケースを想定する。

#### 【0087】

ここでプリンタ管理サーバ4000（4000a、4000b）は、印刷可能なプリンタの情報（設置位置やアドレス、暗号鍵など）を管理しており、ホスト

コンピュータ 3000 は、印刷実行時に前記プリンタ管理サーバ 4000 から必要なプリンタの情報を取得して該当するプリンタに印刷データを送信する。

#### 【0088】

また、本実施の形態の印刷処理システムでは、前記プリンタ管理サーバ 4000 を通して印刷データをプリンタ 4000 a、4000 b に送信することも可能とする。なお、前記プリンタ管理サーバ 4000 は、LAN100 上に接続されていても良いし、インターネット 200 の先に接続されていても良い。

#### 【0089】

図 12 は本発明の第 4 の実施の形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示したブロック図である。

なお、特に断らない限り、ホストコンピュータ 3000 とプリンタ 1500 を接続する形態は LAN、WAN、公衆回線、インターネット等いかなる形態であっても適用できることは言うまでもない。

#### 【0090】

図 12 において、4000 はプリンタ管理サーバで、プログラム ROM 33 または不図示の外部メモリに記録された制御プログラムを実行する CPU 31 と、CPU 31 の主メモリや、ワークエリア等として機能する RAM 32 とを備え、システムバス 35 に接続される各ユニット 32～33 を CPU 31 が総括的に制御する。

#### 【0091】

また、34 はネットワークインターフェースカード (NIC) で、プリンタドライバやプリンタ 1500 との双方向通信処理を行なう。

#### 【0092】

図 13 (a) に示すのが、本実施の形態のホストコンピュータ 3000 のプログラム ROM 3b に記憶されている制御プログラムが、ホストコンピュータ 3000 上の RAM 2 にロードされ実行可能となった状態のメモリマップである。

#### 【0093】

本実施の形態のホストコンピュータ 3000 で使用する暗号化処理やデータ特徴量算出関数等は、印刷処理関連プログラム 304 の一部として存在する。

また、プリンタ管理サーバ4000のパブリックキーやプリンタドライバ自身のプライベートキーは関連データ303の一部として存在する。

#### 【0094】

図13(b)に示すのが、本実施の形態のプリンタ管理サーバ4000のプログラムROM33（または不図示の外部メモリ）に記録されている制御プログラムが、プリンタ管理サーバ4000上のRAM32にロードされ実行可能となった状態のメモリマップである。

#### 【0095】

本実施の形態のプリンタ管理サーバ4000で使用する暗号化／復号化処理、データ特徴量算出関数、及びプリンタ検索処理等は、サーバ処理関連プログラム313の一部として存在する。

#### 【0096】

また、プリンタ管理サーバ4000が管理するプリンタ情報（各プリンタの設置位置、アドレス、各プリンタのパブリックキー等）は、関連データ312の一部として存在する。

#### 【0097】

図13(c)に示すのが、本実施の形態のプリンタ1500のプログラムROM14bに記録されている制御プログラムがプリンタ1500上のRAM13にロードされ実行可能となった状態のメモリマップである。

#### 【0098】

本実施の形態のプリンタ1500で使用する、復号化処理やデータ特徴量算出関数等は、印刷処理関連プログラム323の一部として存在する。また、プリンタ管理サーバ4000のパブリックキーやプリンタ自身のプライベートキーは関連データ322の一部として存在する。

#### 【0099】

図14は、本実施の形態の印刷処理システム（図15以降のフロー図）で用いる暗号鍵を説明する図である。本実施の形態では、暗号法として公開鍵暗号法を用いており、各情報機器でパブリックキーとプライベートキーが存在するため、それぞれの鍵を区別して表現している。

また、図14において、データに鍵がオーバーライドされている絵は、そのデータが該当する鍵で暗号化されている状態を示している。

#### 【0100】

本実施の形態の印刷処理システムでは、プリンタドライバがプリンタ管理サーバ4000からプリンタ1500の情報を安全な方法で取得し、そのプリンタ1500に公開鍵暗号法で暗号化した印刷データを送信する仕組みを説明する。

#### 【0101】

なお、公開鍵暗号法とは、自分と相手に違う暗号鍵（プライベートキーとパブリックキー）を用いて暗号化と復号化を行なう方法であり、どちらか一方の鍵で暗号化したデータはもう一方の鍵を使わないと復号化することができない。

#### 【0102】

この公開鍵暗号法では、通常、パブリックキーは公開し、プライベートキーは秘密に保持する。このように公開鍵暗号法では通信相手ごとに暗号鍵を用意する必要がなく、パブリックキーは公開することができるので相手に暗号鍵を渡すのが非常に楽でありながら、復号することができるのは自分だけに限定することができる。

#### 【0103】

この公開鍵暗号法を例えば本実施の形態の印刷処理システムに適用すると、公開されているプリンタのパブリックキーで暗号化した印刷データを送信すれば、どのプリンタドライバから印刷データを送信した場合であっても、送信先のプリンタでのみ印刷することが可能であり、他のプリンタでは印刷できないように制限することが可能となる。

#### 【0104】

また、プリンタドライバがプリンタ管理サーバ4000からプリンタ情報を安全に取得する方法としては、デジタル署名を利用する。

ここで、デジタル署名とは、送信するデータの内容の特徴量を算出したものを送信元のプライベートキーで暗号化したものである。ここではプリンタ情報をプリンタ管理サーバ4000のプライベートキーで暗号化したものとなる。

#### 【0105】

プリンタドライバは、前記プリンタ管理サーバ4000のパブリックキーを保持しており、前記パブリックキーを用いて前記デジタル署名を復号化し、前記復号化したデジタル署名と別途送信されたプリンタ情報から算出した特徴量とを比較することで、送信元の身元と印刷データ（印刷ジョブ）の改ざんの有無を確認することができる。

#### 【0106】

また、前記特徴量としては、ハッシュ値やチェックサム等を用いる。ハッシュ値とは、ハッシュ関数から算出される値で、ハッシュ関数は計算結果から元の値を求めたり、同じハッシュ値になるように改ざんしたりするのが困難な関数である。

#### 【0107】

ユーザがアプリケーション上で印刷操作を行なうと、アプリケーションはプリンタドライバに印刷データを渡し、印刷処理を実行する。ここでプリンタドライバは、最初に出すべきプリンタを決定し、そのアドレスや暗号鍵を取得するために、プリンタ管理サーバ4000に対してプリンタ情報探索要求データを送信する。

#### 【0108】

なお、前記プリンタ情報探索要求データを受信したプリンタ管理サーバ4000におけるプリンタの選択基準としては、例えば、

「・自分が外出中に、見積書などを最寄りの（例えばコンビニの）プリンタに印刷したい。」、

「・外出している相手先の最寄りのプリンタに印刷をしたい。」、

「・顧客のプリンタに親展印刷をしたい。」

などのケースが考えられる。そこで、印刷を行なうプリンタを決定するために、ユーザは事前に、もしくは対話的（インタラクティブ）に、プリンタ選択のための操作を行なうものとする。

#### 【0109】

以下、図15に示す処理フロー図を用いて、プリンタ管理サーバ4000がプリンタ情報を取り出し、プリンタドライバに返信する処理を詳しく説明する。



**【0110】**

プリンタ管理サーバ4000は、プリンタドライバから受信した前記プリンタ情報探索要求データの内容（プリンタの位置、カラー／両面／ステイプルなどのプリンタの必要能力など）に応じて、自身が管理しているプリンタ情報のリストの中から適切なプリンタを選択し、該当するプリンタに関するプリンタ情報を取り出す（ステップS501）。

**【0111】**

前記プリンタ情報には、プリンタアドレス（IP、SMB、URLなど）や、プリンタのパブリックキー等が含まれるものとする。

なお、前記ステップS501のプリンタ探索ステップでは、必ずしも1台のプリンタを選択する必要はない。すなわち、前記ステップS501のプリンタ探索ステップでは、プリンタ管理サーバ4000が条件（前記プリンタ情報の探索要求データの内容）によってある程度の数のプリンタに絞り、前記絞ったプリンタに関するプリンタ情報をプリンタドライバに一度返送し、プリンタドライバ側でその中から所望するプリンタを選択するという対話的（インタラクティブ）な処理を行なっても良い。

**【0112】**

さらに、プリンタ管理サーバ4000は、選択するプリンタの数を絞らずに自身が管理しているすべてのプリンタに関するプリンタ情報をプリンタドライバに送信し、プリンタドライバ側で所望するプリンタを選択する構成にしても良い。

**【0113】**

次に、プリンタ管理サーバ4000は、前記取り出したプリンタ情報から特徴量算出関数を通して特徴量を算出し（ステップS502）、前記特徴量をプリンタ管理サーバ4000のプライベートキーで暗号化する（ステップS503）。このステップS503で得られたものがデジタル署名となる。最後に、前記プリンタ情報とデジタル署名とをプリンタドライバに返信する。

**【0114】**

以下、図16に示す処理フロー図を用いて、プリンタドライバが、暗号化された印刷ジョブをプリンタに送信する処理を詳しく説明する。

## 【0115】

プリンタドライバは、プリンタ管理サーバ4000から返信されたデジタル署名とプリンタ情報のうち、デジタル署名をプリンタ管理サーバ4000のパブリックキーで復号化し、特徴量を取得する（ステップS601）。なお、プリンタドライバは、プリンタ管理サーバ4000のパブリックキーを保持しているものとする。

## 【0116】

次に、プリンタドライバは、取得したプリンタ情報から、プリンタドライバ側でも特徴量取得関数により特徴量を算出し（ステップS602）、それを受信した特徴量と比較し（ステップS603）、同一値であれば取得したプリンタ情報が所望するプリンタ管理サーバ4000からのものであり、且つ印刷データに改ざんがないことが確かめられる。

## 【0117】

次に、プリンタドライバは、プリンタ情報に含まれるパブリックキーを取り出し（ステップS604）、アプリケーションから渡された印刷データを前記取り出したパブリックキーで暗号化する（ステップS605）。最後に、暗号化された印刷データを印刷ジョブとしてプリンタ1500に送信する。

## 【0118】

以下、図17に示す処理フロー図を用いて、プリンタが、受信した印刷ジョブから印刷データを取得する処理を詳しく説明する。

## 【0119】

プリンタ1500は、受信した印刷ジョブ中の印刷データをプリンタ1500のプライベートキーで復号化し（ステップS701）、印刷データを取得する。

## 【0120】

以上の図16及び図17で示した各ステップにより、指定されたプリンタ以外では印刷データを印刷することができないように印刷ジョブを防御しながら、プリンタドライバからプリンタ1500に印刷ジョブを送信することが可能となる。

## 【0121】

そして、プリンタドライバでは、プリンタ管理サーバ4000の暗号鍵さえ知っておけば、出力したいプリンタのアドレスや能力、暗号鍵を独自に管理しなくても安全な方法でプリンタ情報を取得することができる。すなわち、プリンタ管理サーバ4000さえメンテナンスしておけば、いかなるホストコンピュータからでも容易且つ安全に印刷データの印刷を実行することが可能となる。

#### 【0122】

(第5の実施の形態)

次に、本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第5の実施の形態について説明する。なお、本実施の形態の印刷処理システムにおけるハードウェアの構成は前述した第4の実施の形態と同様である。したがって、前述した第4の実施の形態と同一部分については図11～図15に示した符号と同一の符号を付し詳細な説明を省略する。

#### 【0123】

前述の第4の実施の形態では、プリンタドライバのプリンタ情報取得要求によってやり取りされる情報には、プリンタ管理サーバ4000のデジタル署名がつくため、データが改ざんされる恐れはないものの、ネットワーク上では誰でもが参照することが可能なため、その後の行動を第三者に掌握される恐れがあった。

#### 【0124】

そこで、本実施の形態では、プリンタ管理サーバ4000が返送するデータも暗号化して情報の機密性を高める仕組みの例を示す。

#### 【0125】

なお、前述した第4の実施の形態との差異は、プリンタ管理サーバとプリンタドライバとのやり取りのみであり、プリンタ側で暗号化された印刷データを印刷する処理は図17の処理と同様である。

#### 【0126】

ユーザがアプリケーション上で印刷操作を行なうと、アプリケーションはプリンタドライバに印刷データを渡し、印刷処理を実行する。ここでプリンタドライバは、プリンタ管理サーバ4000に対してプリンタ情報探索要求データを送信

するとともに、プリンタドライバ自身のパブリックキーを送信する。

#### 【0127】

以下、図8に示す処理フロー図を用いて、プリンタ管理サーバ4000がプリンタ情報を取り出し、プリンタドライバに返信する処理を詳しく説明する。

#### 【0128】

プリンタ管理サーバ4000は、プリンタドライバから受信した前記プリンタ情報探索要求データの内容に応じて、管理しているプリンタ情報リストの中から適切なプリンタを検索し、該当するプリンタ情報を取り出す（ステップS801）。本ステップの処理は前記第4の実施の形態で説明したステップS501と同様である。

#### 【0129】

次に、プリンタ管理サーバ4000は、前記取り出したプリンタ情報を、受信したプリンタドライバのパブリックキーで暗号化する（ステップS802）。

次に、プリンタ管理サーバ4000は、元のプリンタ情報から特徴量算出関数を通して特徴量を算出し（ステップS803）、前記特徴量をプリンタ管理サーバ4000のプライベートキーで暗号化する（ステップS804）。

このステップS804で得られたものがデジタル署名となる。最後に、前記暗号化されたプリンタ情報とデジタル署名とをプリンタドライバに返信する。

#### 【0130】

以下、図19に示す処理フロー図を用いて、プリンタドライバが、暗号化された印刷ジョブをプリンタに送信する処理を詳しく説明する。

#### 【0131】

プリンタドライバは、プリンタ管理サーバ4000から受信したプリンタ情報をプリンタドライバのプライベートキーで復号化し（ステップS901）、プリンタ情報を取得する。

#### 【0132】

また、プリンタドライバは、プリンタ管理サーバ4000から受信したデジタル署名をプリンタ管理サーバ4000のパブリックキーで復号化し、プリンタ情報の特徴量を取得する（S902）。なお、プリンタドライバは、プリンタ管理

サーバ4000のパブリックキーを保持しているものとする。

#### 【0133】

次に、プリンタドライバは、取得したプリンタ情報から、プリンタドライバでも特徴量取得関数により特徴量を算出し（ステップS903）、それを受信した特徴量と比較し（ステップS904）、同一値であれば取得したプリンタ情報が所望するプリンタ管理サーバ4000からのものであり、且つ印刷データに改ざんがないことが確かめられる。

#### 【0134】

次に、プリンタドライバは、プリンタ情報に含まれるパブリックキーを取り出し（ステップS905）、アプリケーションから渡された印刷データを前記取り出したパブリックキーで暗号化する（ステップS906）。最後に、暗号化された印刷データを印刷ジョブとしてプリンタ1500に送信する。

#### 【0135】

以上のステップにより、プリンタ管理サーバ4000から返信されるプリンタ情報は、プリンタ管理サーバ4000に要求を発したプリンタドライバでしか見ることができないため、情報機密性を高めることができる。

#### 【0136】

また、プリンタドライバは自身のパブリックキーも送っているため、プリンタ管理サーバ4000は対応すべきプリンタドライバを管理する必要はない。パブリックキーは公開しているものなので、プリンタ管理サーバ4000に渡すことには問題はない。

#### 【0137】

なお、本実施の形態では、プリンタ情報を暗号化する例のみを示したが、プリンタドライバからプリンタ管理サーバ4000にプリンタドライバ自身のパブリックキーを送信し、それを用いて暗号化した情報をプリンタドライバに返す手段は、他のデータにおいても適用可能である。

#### 【0138】

したがって、プリンタ情報以外の他のデータを暗号化する場合であっても、プリンタ管理サーバ4000がプリンタドライバを管理しなくてもよい仕組みを提

供することが可能となる。

【0139】

また、本実施の形態では、プリンタドライバの暗号鍵を使用する場合を例に挙げて説明したが、使用する暗号鍵はプリンタドライバのものに限らず、ホストコンピュータ3000を対象としても良いし、使用しているユーザを対象としても良いことは言うまでもない。

【0140】

例えばホストコンピュータ3000を対象にした場合は、そのホストコンピュータ3000をマルチユーザ形態で利用するようにすれば、そのホストコンピュータ3000上の誰もが同じ条件で印刷データをプリンタ1500で印刷することができる。

【0141】

また、ユーザを対象にした場合は、社内のデスクトップパソコン（PC）から印刷しても営業先のノートパソコン（PC）から印刷しても同じ条件で印刷データを印刷することができる。

【0142】

（第6の実施の形態）

次に、本発明の印刷制御装置、プリンタ、プリンタ管理サーバ、印刷処理システム、印刷制御方法、コンピュータプログラム及びコンピュータ読み取り可能な記録媒体の第6の実施の形態について説明する。なお、本実施の形態の印刷処理システムにおけるハードウェアの構成は前述した第4の実施の形態及び第5の実施の形態と同様である。したがって、前述した第4の実施の形態及び第5の実施の形態と同一部分については図11～図19に示した符号と同一の符号を付し詳細な説明を省略する。

【0143】

前述の第4の実施の形態及び第5の実施の形態では、印刷データを指定したプリンタ以外では印刷することができない仕組みを示してきた。

しかしながら、例えば何者かがオリジナルの印刷データをフックして異なる印刷データを、前述した第4の実施の形態及び第5の実施の形態と同様のステップ

を経て対象とするプリンタに流し直した場合などでは、前記流された印刷データが改ざんされた印刷データであるかどうかをプリンタ側で判断することができない。

#### 【0144】

この問題は、印刷データにデジタル署名をつけることで解決を図ることができる。しかし、そのためには、プリンタに対象とするプリンタドライバのパブリックキーを登録しておく必要がある。

#### 【0145】

また、印刷処理システム中の全プリンタにパブリックキーを登録しなければならない。さらに、対象とするホストコンピュータが増えたときには、全プリンタをメンテナンスしたりしなければならない。したがって、このような方法で印刷データが改ざんされているか否かを判断すると、非常に大きな労力を要する。

#### 【0146】

そこで、本実施の形態では、プリンタ管理サーバ4000を経由して印刷データを送ることで、印刷データの改ざん防止を図りながらも、プリンタ1500のメンテナンスをほぼ不要とする仕組みについて説明する。

#### 【0147】

以下、図20に示す処理フロー図を用いて、プリンタドライバがプリンタ管理サーバに印刷データを送信する処理を詳しく説明する。

#### 【0148】

ユーザがアプリケーション上で印刷操作を行なうと、アプリケーションはプリンタドライバに印刷データを渡し、印刷処理を実行する。

#### 【0149】

ここでプリンタドライバは、まず出力すべきプリンタを決めるために、プリンタ管理サーバ4000への要求データを作成し、もしくはプリンタ管理サーバ4000との対話的（インタラクティブ）なやり取りを通してプリンタを特定し（S1001）、プリンタ管理サーバ4000に送信するプリンタ指定要求を作成する。

#### 【0150】

次に、プリンタドライバは、アプリケーションから渡された印刷データをプリンタ管理サーバ4000のパブリックキーで暗号化する（ステップS1002）。最後に、暗号化された印刷データとプリンタ指定要求をプリンタ管理サーバ4000に送信する。

#### 【0151】

以下、図21に示す処理フロー図を用いて、プリンタ管理サーバ4000が暗号化された印刷ジョブをプリンタ1500に送信する処理を詳しく説明する。

#### 【0152】

プリンタ管理サーバ4000は、プリンタドライバから受信した前記プリンタ指定要求に応じて、管理しているプリンタ情報リストの中から適切なプリンタを選択し、該当するプリンタ情報を取り出す（ステップS1101）。このプリンタ情報には、プリンタアドレスやプリンタのパブリックキー等が含まれるものとする。

#### 【0153】

次に、プリンタ管理サーバ4000は、プリンタドライバから受信した印刷データを、プリンタ管理サーバ4000のプライベートキーで復号化し（ステップS1102）、印刷データを取得する。このステップにより、プリンタ管理サーバ4000以外の情報機器では印刷データを盗み取ることはできない。

#### 【0154】

次に、プリンタ管理サーバ4000は、前記取得した印刷データを、プリンタ情報の中に含まれるプリンタのパブリックキーで暗号化する（ステップS1103）。

#### 【0155】

次に、プリンタ管理サーバ4000は、前記取得した印刷データから特徴量算出関数を通して特徴量を算出し（ステップS1104）、前記算出した特徴量をプリンタ管理サーバ4000のプライベートキーで暗号化する（ステップS1105）。ここで得られたものがデジタル署名となる。

#### 【0156】

最後に、プリンタ管理サーバ4000は、前記暗号化された印刷データとデジ



タル署名とを合わせたものを印刷ジョブとして、前記プリンタ情報に含まれるプリンタアドレスに転送する。

#### 【0157】

以下、図22に示す処理フロー図を用いて、プリンタ1500が、受信した印刷ジョブから印刷データを取得する処理を詳しく説明する。

#### 【0158】

プリンタ1500は、受信した印刷ジョブ中の印刷データをプリンタ1500のプライベートキーで復号化し（ステップS1201）、印刷データを取得する。このステップにより、指定したプリンタ以外の情報機器では印刷データを盗み取ることはできない。

#### 【0159】

次に、プリンタ1500は、受信した印刷ジョブ中のデジタル署名を、送信元のプリンタ管理サーバ4000のパブリックキーで復号化し（ステップS1202）、印刷データの特徴量を取得する。

#### 【0160】

次に、プリンタ1500は、前記取得した印刷データから、プリンタ本体でも特徴量取得関数により特徴量を算出し（ステップS1203）、それを受信した特徴量と比較し（ステップS1204）、同一値であれば前記ステップS1201で取得した印刷データに改ざんがないことが確かめられる。

#### 【0161】

以上のように本実施の形態では、印刷データが盗み取られてしまうことを防止するほかに、印刷データの改ざんを防止することができる。

また、各情報機器が保持しなければならない他の情報機器のパブリックキーは、プリンタドライバ及びプリンタについてはプリンタ管理サーバ4000のパブリックキーのみでよく、また、プリンタ管理サーバ4000については自身が管理しているプリンタのパブリックキーのみでよい。したがって、印刷処理システムの構成が変わってもメンテナンスが必要なのはプリンタ管理サーバ4000のみで済む。

#### 【0162】

(本発明の他の実施形態)

上述した実施形態の機能を実現するべく各種のデバイスを動作させるように、該各種デバイスと接続された装置あるいはシステム内のコンピュータに対し、前記実施形態の機能を実現するためのソフトウェアのプログラムコードを供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（CPUあるいはMPU）に格納されたプログラムに従って前記各種デバイスを動作させることによって実施したものも、本発明の範疇に含まれる。

【0163】

また、この場合、前記ソフトウェアのプログラムコード自体が上述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコード自体、およびそのプログラムコードをコンピュータに供給するための手段、例えば、かかるプログラムコードを格納した記録媒体は本発明を構成する。かかるプログラムコードを記憶する記録媒体としては、例えばフレキシブルディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROM等を用いることができる。

【0164】

また、コンピュータが供給されたプログラムコードを実行することにより、上述の実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードがコンピュータにおいて稼働しているOS（オペレーティングシステム）あるいは他のアプリケーションソフト等と共同して上述の実施形態の機能が実現される場合にもかかるプログラムコードは本発明の実施形態に含まれることは言うまでもない。

【0165】

さらに、供給されたプログラムコードがコンピュータの機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに格納された後、そのプログラムコードの指示に基づいてその機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPU等が実際の処理の一部または全部を行ない行ない、その処理によって上述した実施形態の機能が実現される場合にも本発明に含まれることは言うまでもない。

【0166】

**【発明の効果】**

以上説明したように本発明によれば、印刷データを含んだ印刷ジョブを、通信媒体を介して指定のプリンタに送信して、前記指定のプリンタにより前記印刷データを印刷するように制御するに際して、前記印刷ジョブの印刷を指定されたプリンタでのみ復号化することが可能な暗号化方法で前記印刷データを暗号化するようにしたので、たとえ印刷データが含まれている印刷ジョブが盗み取られたとしても、前記印刷データが他のプリンタで印刷されることを防止することができ、盗み取られた印刷データが第三者に利用されることを防止することができる。

**【0167】**

また、本発明の他の特徴によれば、印刷データから算出した特徴量を暗号化してデジタル署名を作成し、前記作成したデジタル署名を前記印刷ジョブに含めて送信するようにしたので、印刷ジョブの送信元の特定と、印刷ジョブに改ざんがないことを保証することができる。したがって、通信媒体経由で印刷データを印刷する場合でも、印刷データが盗み取られて改ざんされた場合にはそれを検知することができる。これにより、誤った印刷を防止することができ、重要な印刷データを安全に印刷することが可能となる。

**【0168】**

また、本発明のその他の特徴によれば、通信媒体に接続されたプリンタをプリンタ管理サーバで一括管理させるようにしたので、印刷制御装置及びプリンタはプリンタ管理サーバのパブリックキーのみを保持すればよく、また、プリンタ管理サーバは管理しているプリンタのパブリックキーのみを保持すればよくなり、複数の印刷制御装置と複数のプリンタとからなる大規模なシステムにおいてもメンテナンスに要する労力を大幅に削減することが可能となる。

**【図面の簡単な説明】****【図1】**

本発明の第1の実施形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示した概念図である。

**【図2】**

本発明の第1の実施の形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示したブ

ロック図である。

【図 3】

本発明の第 1 の実施の形態を示し、RAM のメモリマップを示す図である。

【図 4】

本発明の第 1 の実施の形態を示し、印刷処理システムで用いる暗号鍵を説明する図である。

【図 5】

本発明の第 1 の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

【図 6】

本発明の第 1 の実施の形態を示し、プリンタの処理を示すフロー図である。

【図 7】

本発明の第 2 の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

【図 8】

本発明の第 2 の実施の形態を示し、プリンタの処理を示すフロー図である。

【図 9】

本発明の第 3 の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

【図 10】

本発明の第 3 の実施の形態を示し、プリンタの処理を示すフロー図である。

【図 11】

本発明の第 4 の実施形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示した概念図である。

【図 12】

本発明の第 4 の実施の形態を示し、印刷処理システムの構成の一例を示したブロック図である。

【図 13】

本発明の第 4 の実施の形態を示し、RAM のメモリマップを示す図である。

**【図 14】**

本発明の第4の実施の形態を示し、印刷処理システムで用いる暗号鍵を説明する図である

**【図 15】**

本発明の第4の実施の形態を示し、プリンタ管理サーバの処理を示すフロー図である。

**【図 16】**

本発明の第4の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

**【図 17】**

本発明の第4の実施の形態を示し、プリンタの処理を示すフロー図である。

**【図 18】**

本発明の第5の実施の形態を示し、プリンタ管理サーバの処理を示すフロー図である。

**【図 19】**

本発明の第5の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

**【図 20】**

本発明の第6の実施の形態を示し、プリンタドライバの処理を示すフロー図である。

**【図 21】**

本発明の第6の実施の形態を示し、プリンタ管理サーバの処理を示すフロー図である。

**【図 22】**

本発明の第6の実施の形態を示し、プリンタの処理を示すフロー図である。

**【符号の説明】**

100 LAN

200 インターネット

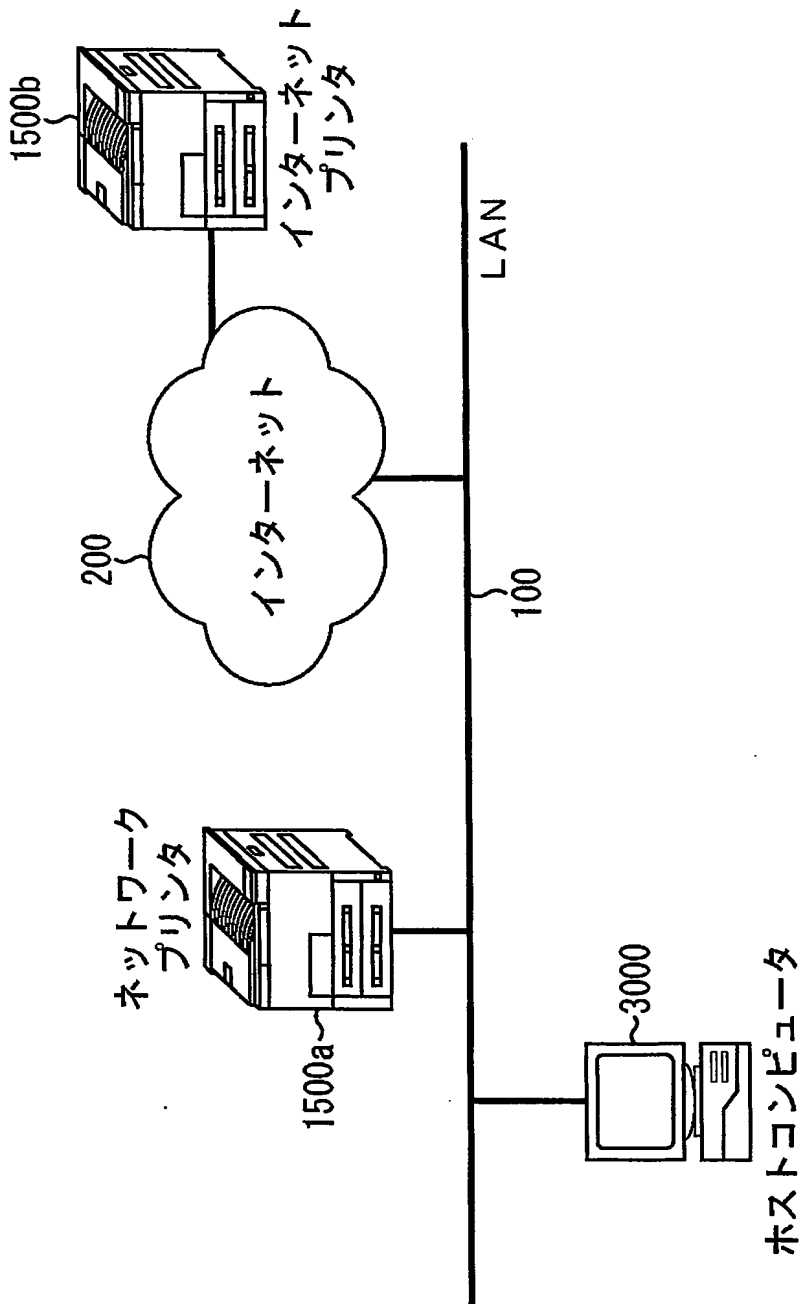
1500 プリンタ

3000 ホストコンピュータ

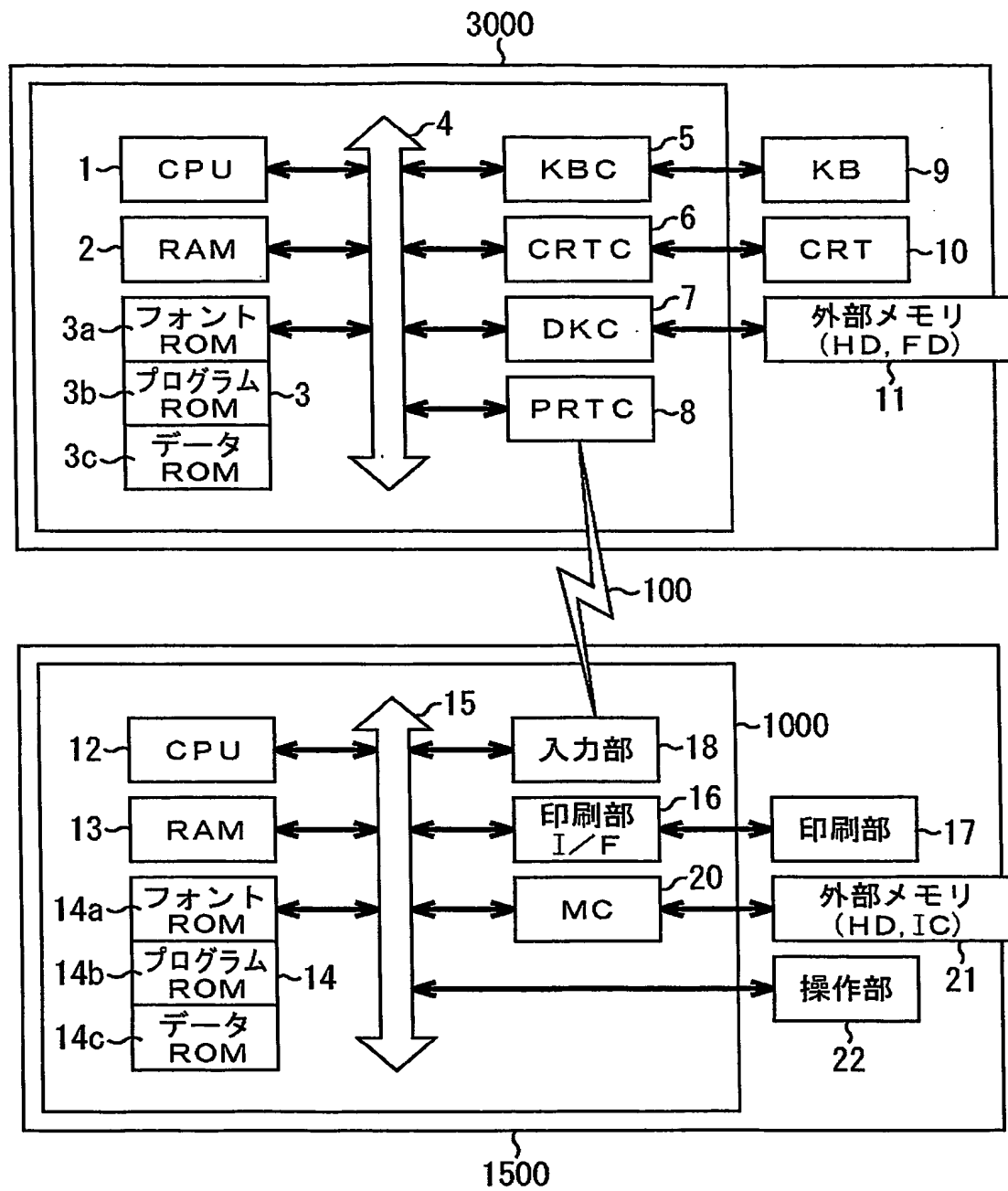
4000 プリンタ管理サーバ

【書類名】 図面

【図 1】



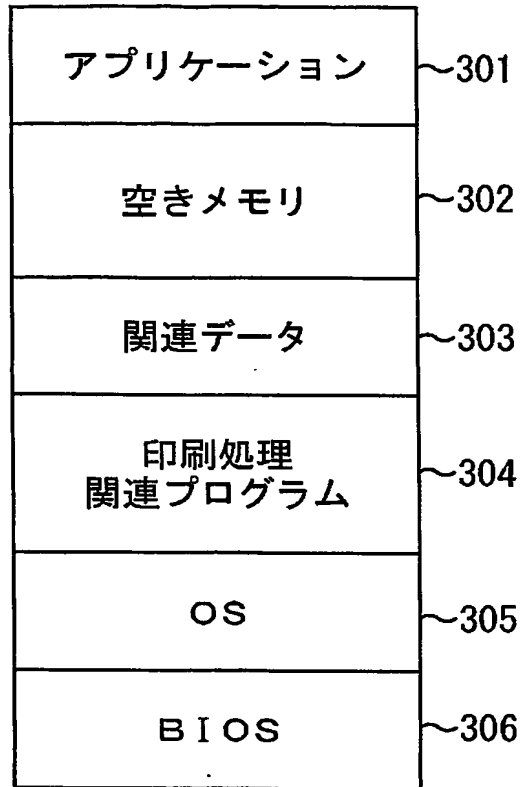
【図 2】



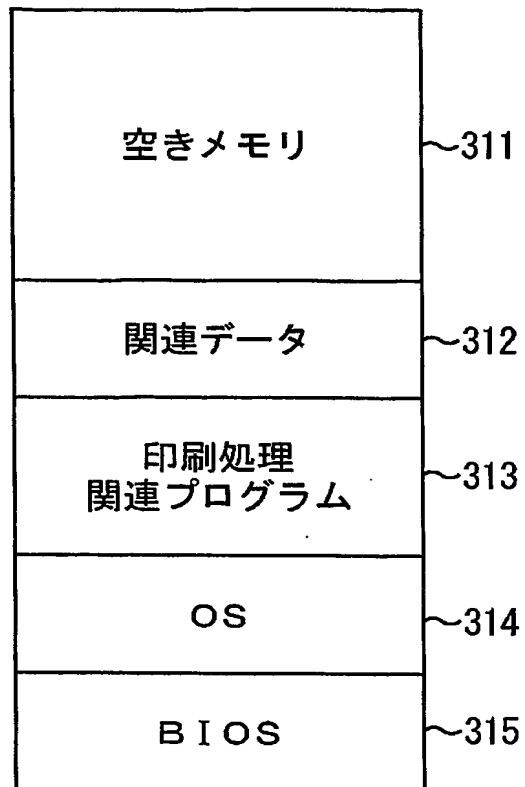


【図3】

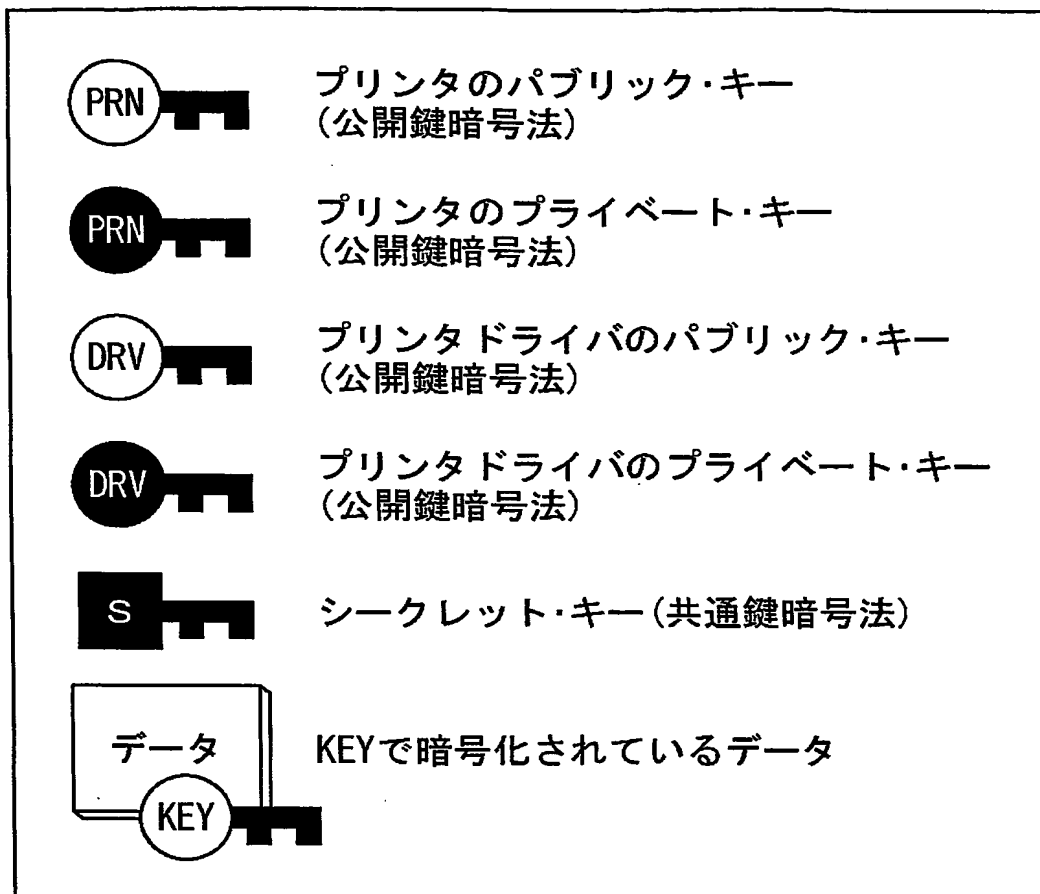
(a) ホストコンピュータ



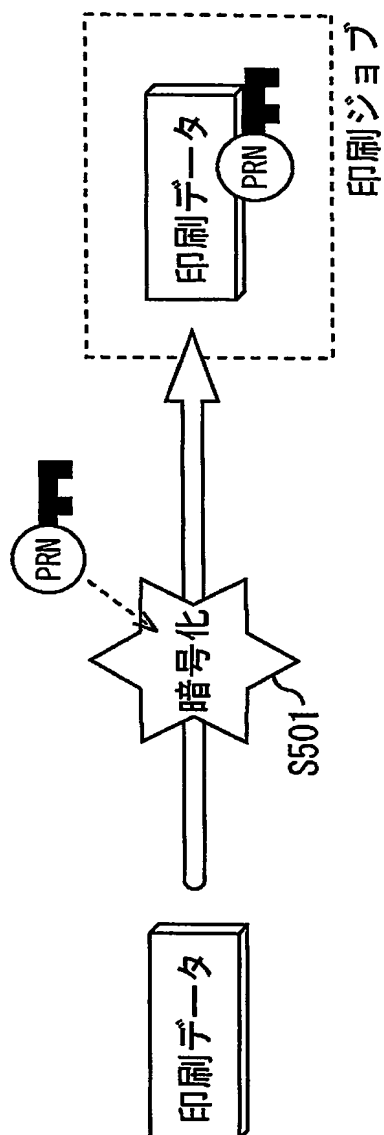
(b) プリンタ



【図 4】

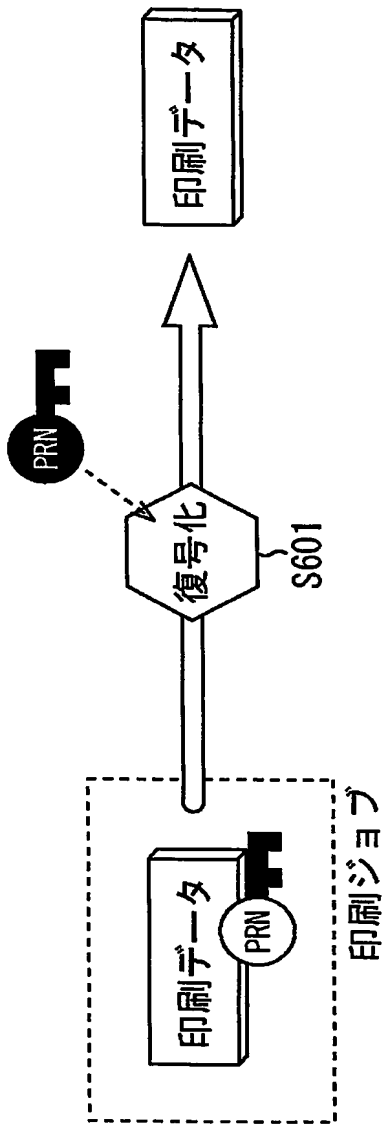


【図 5】



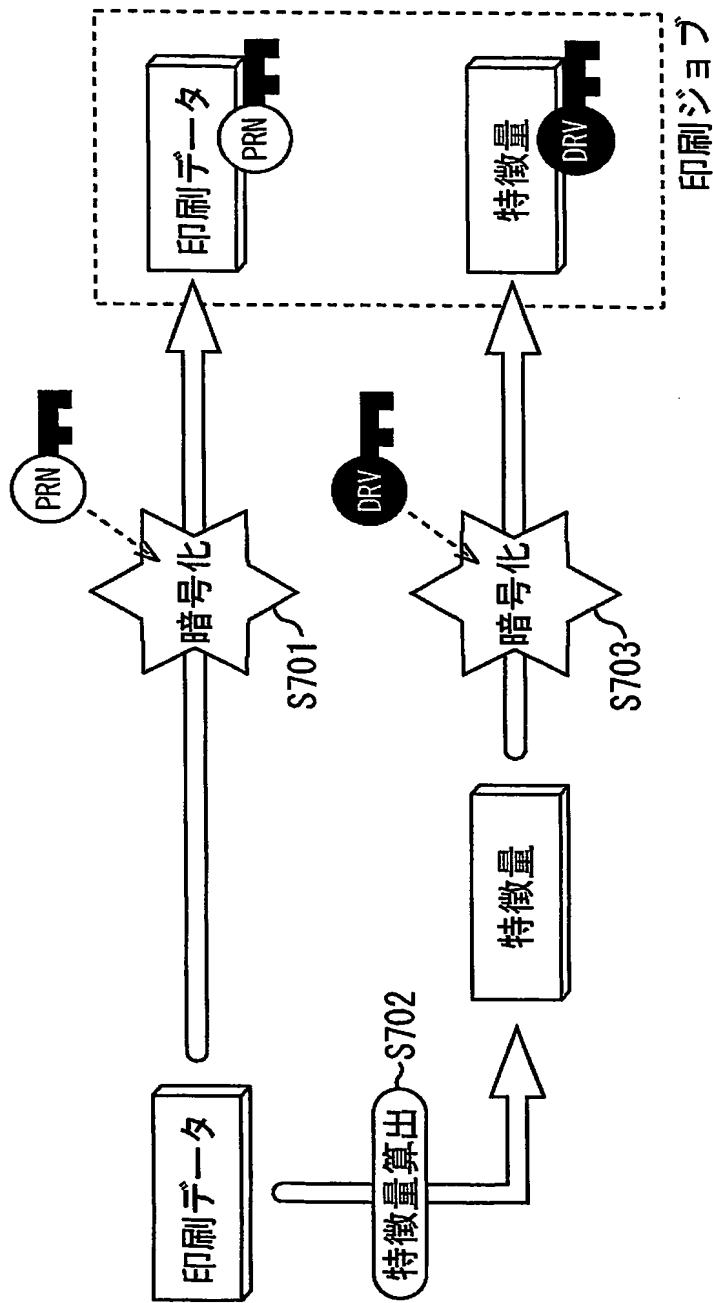
プリンタドライバの処理

【図 6】



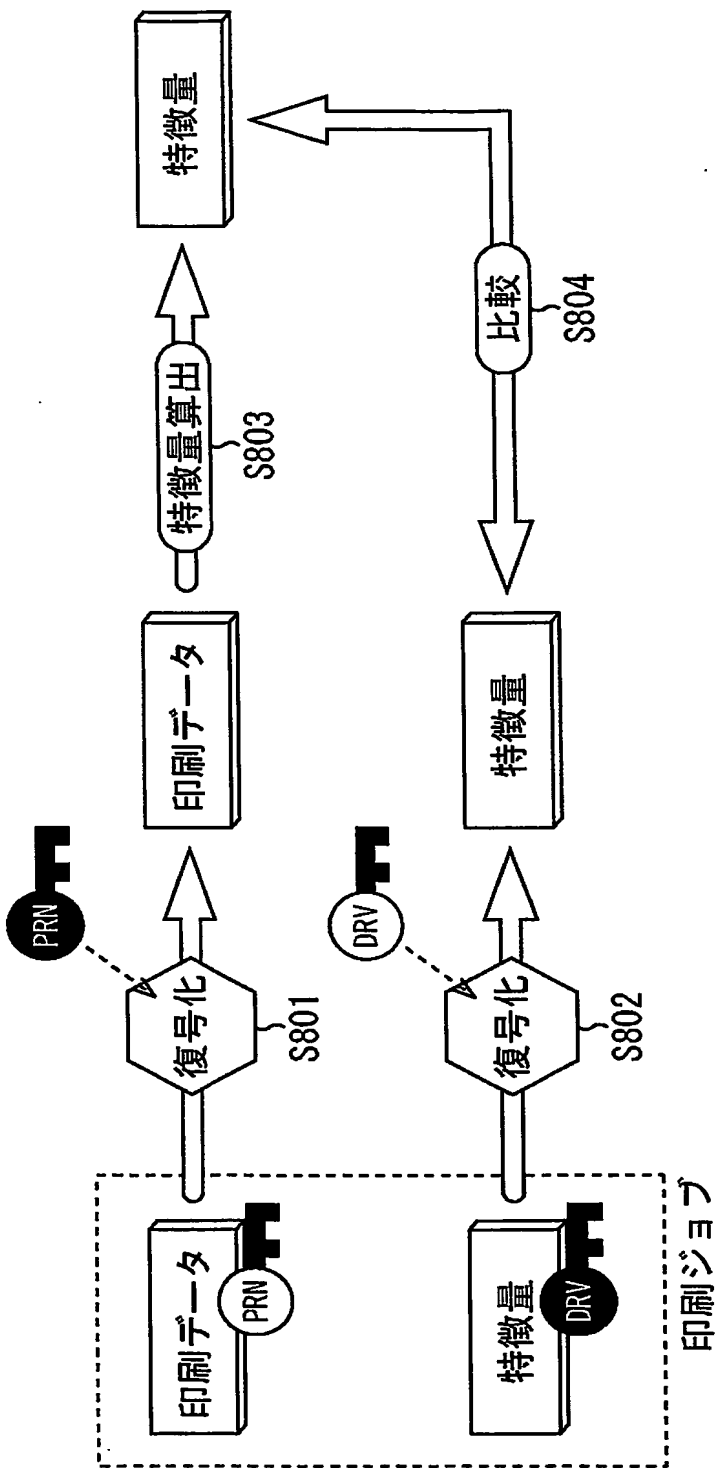
プリンタの処理

【図 7】



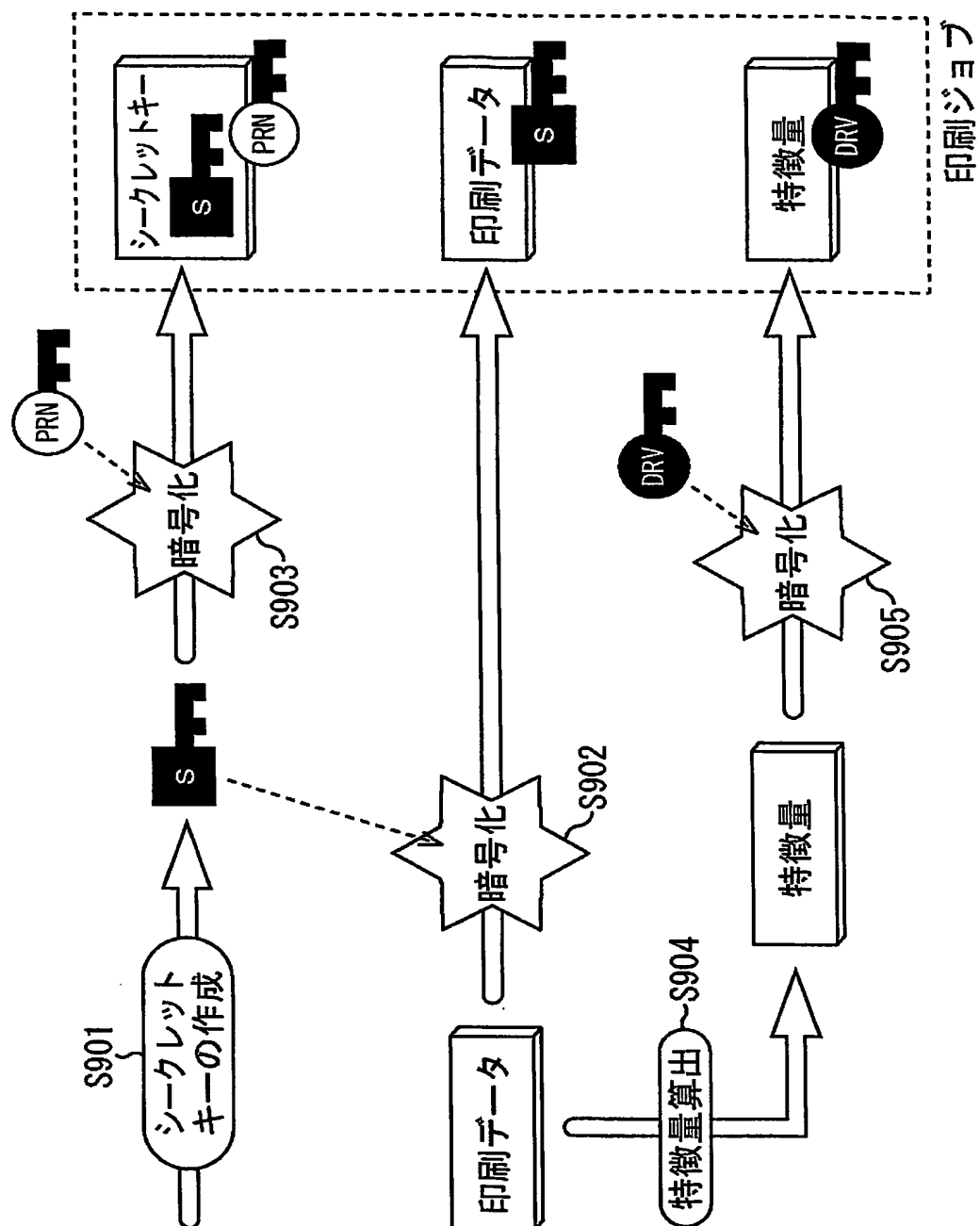
プリンタドライバの処理

【図8】

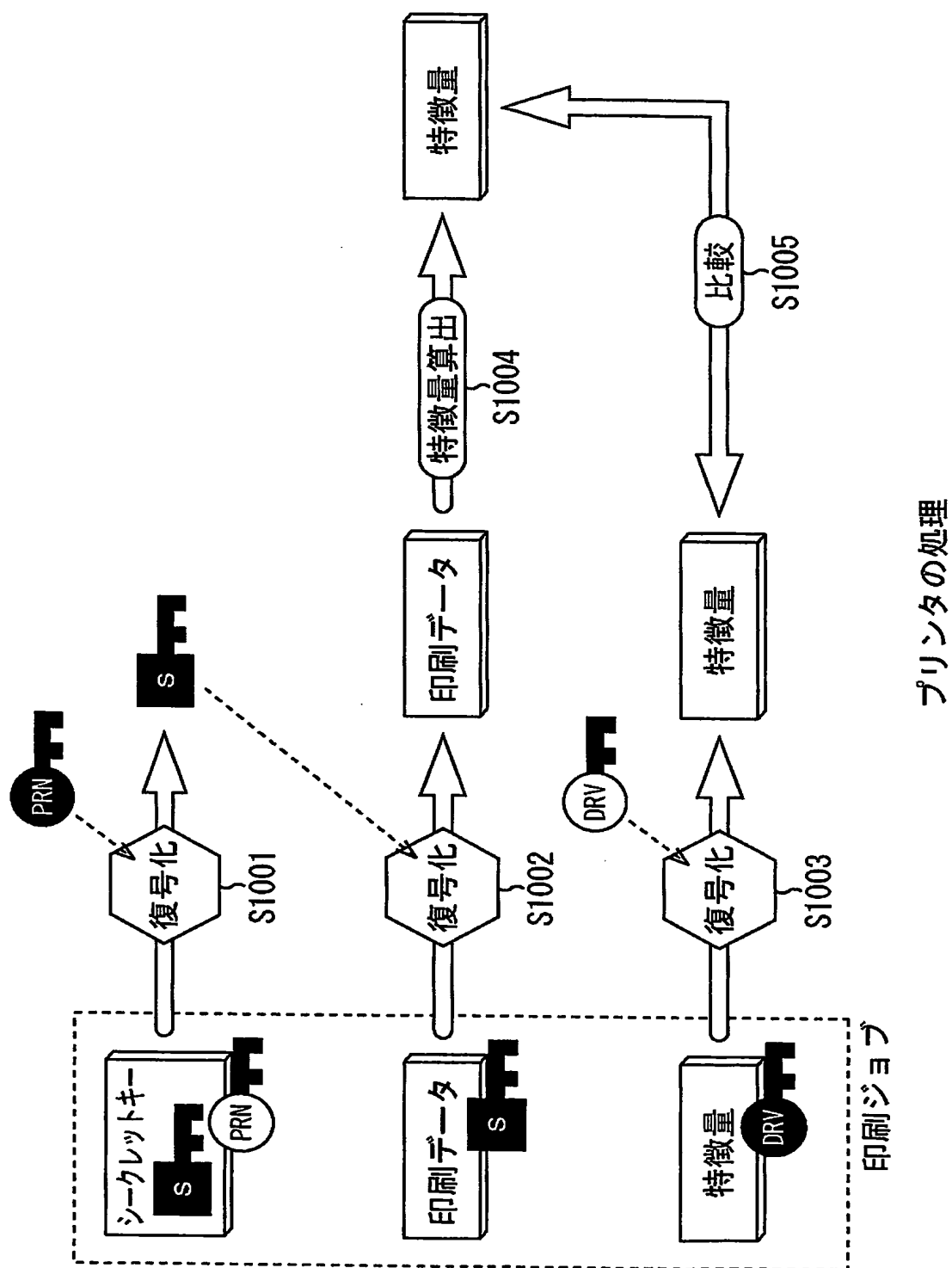


プリンタの処理

【图 9】

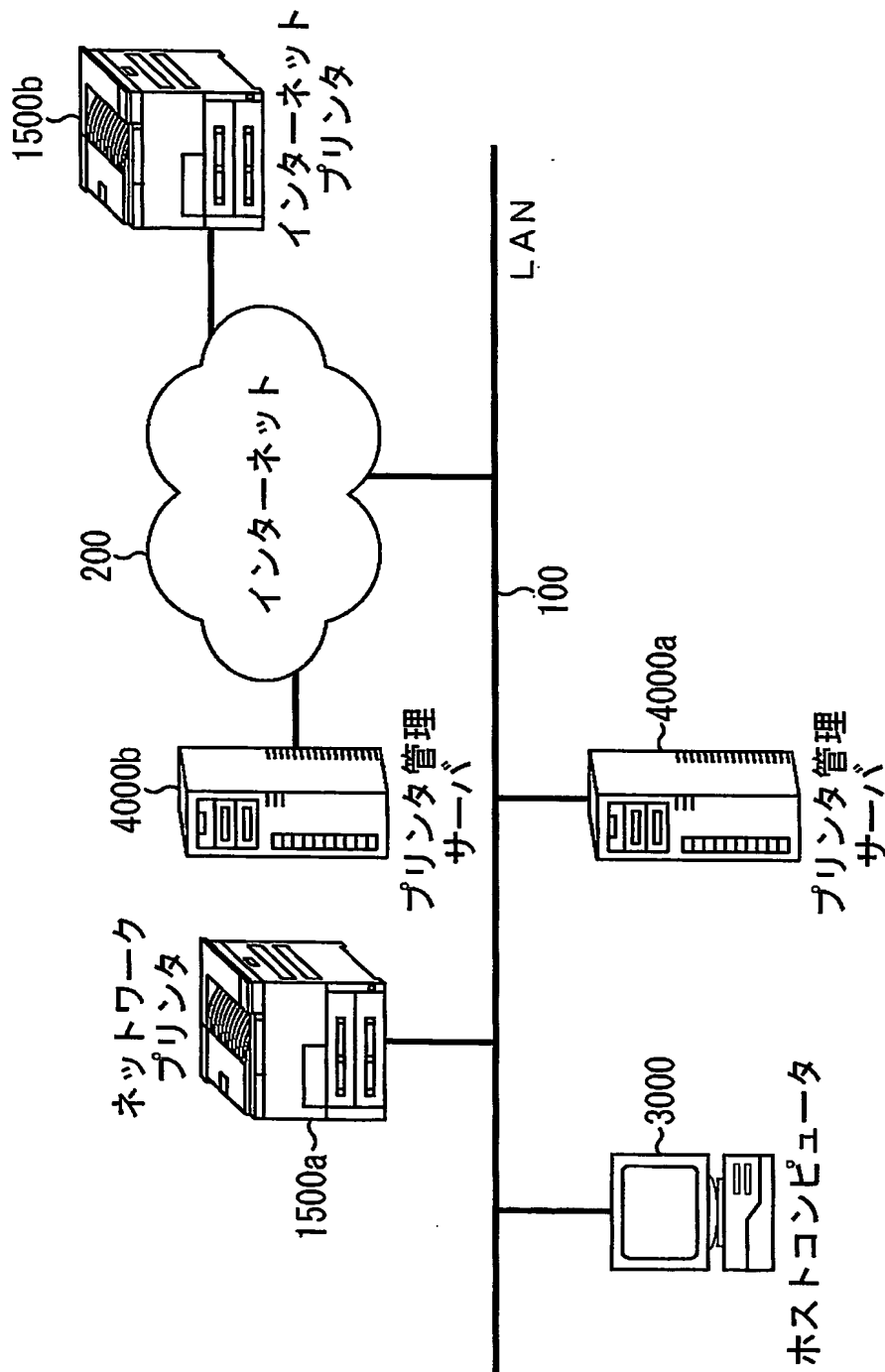


【図10】

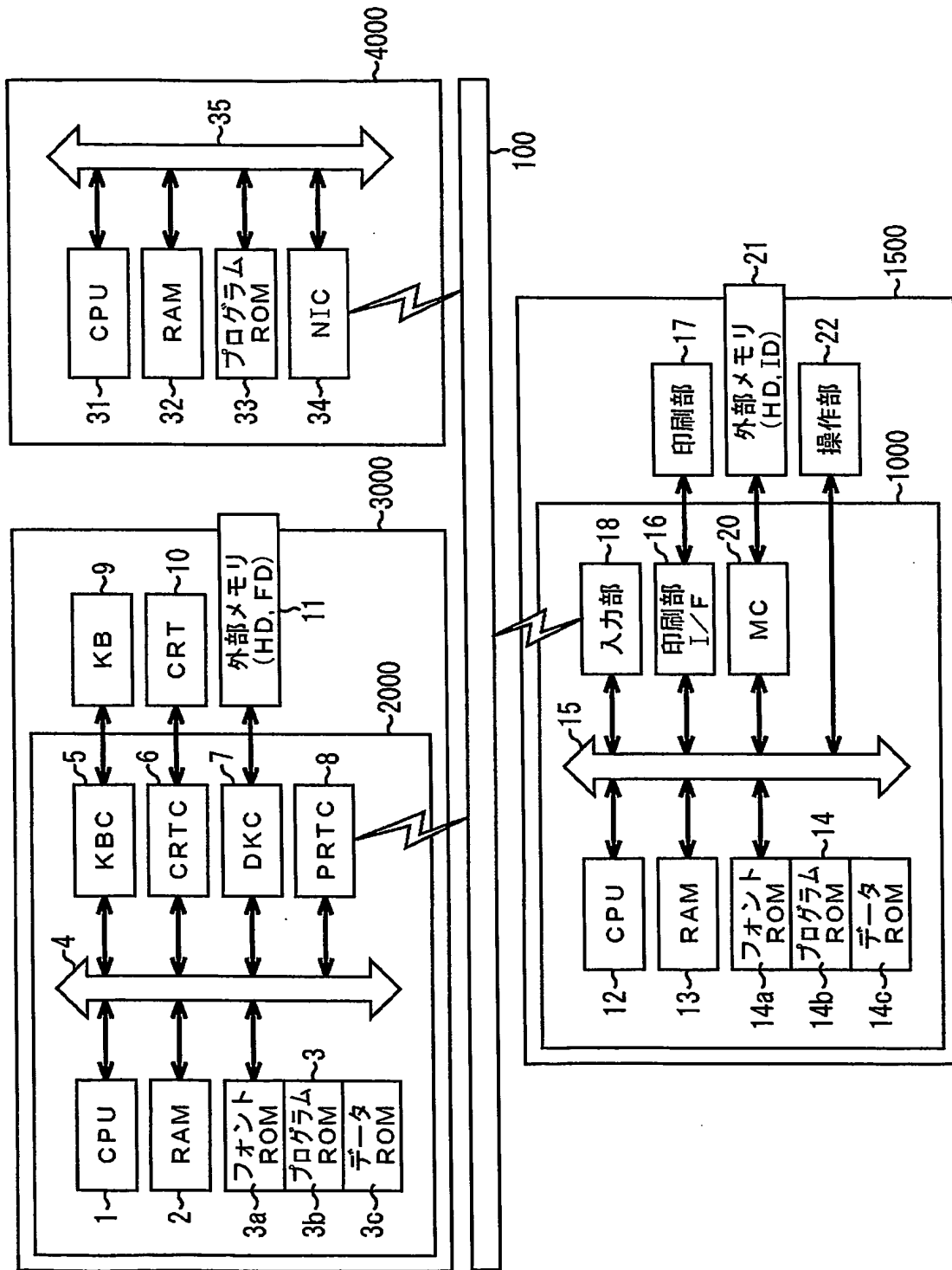




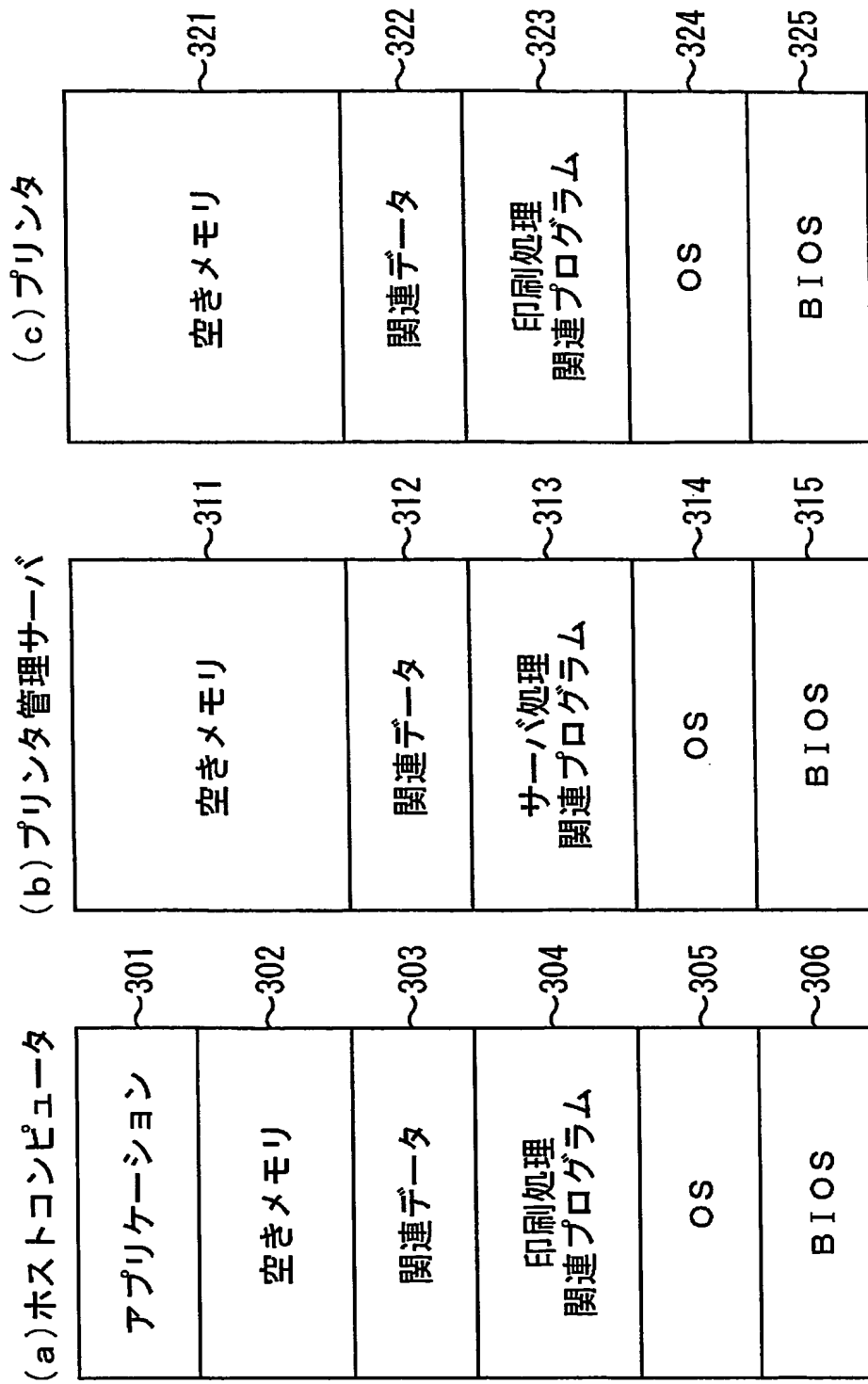
【図 11】



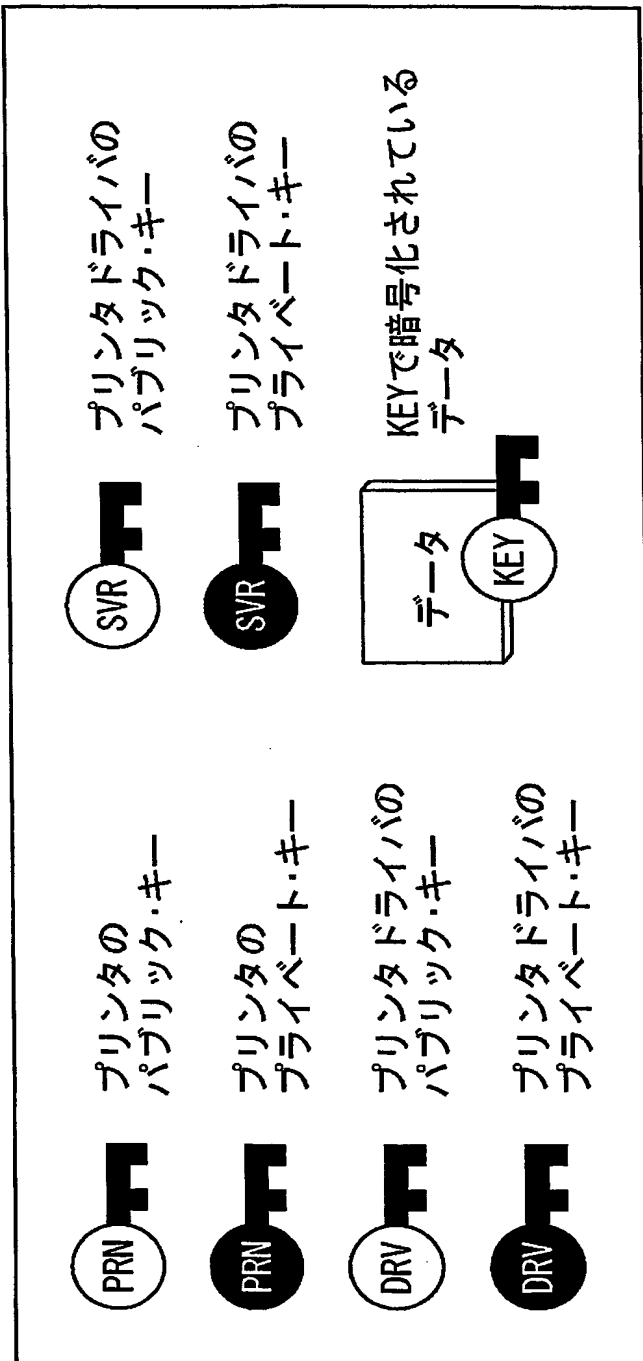
【図12】



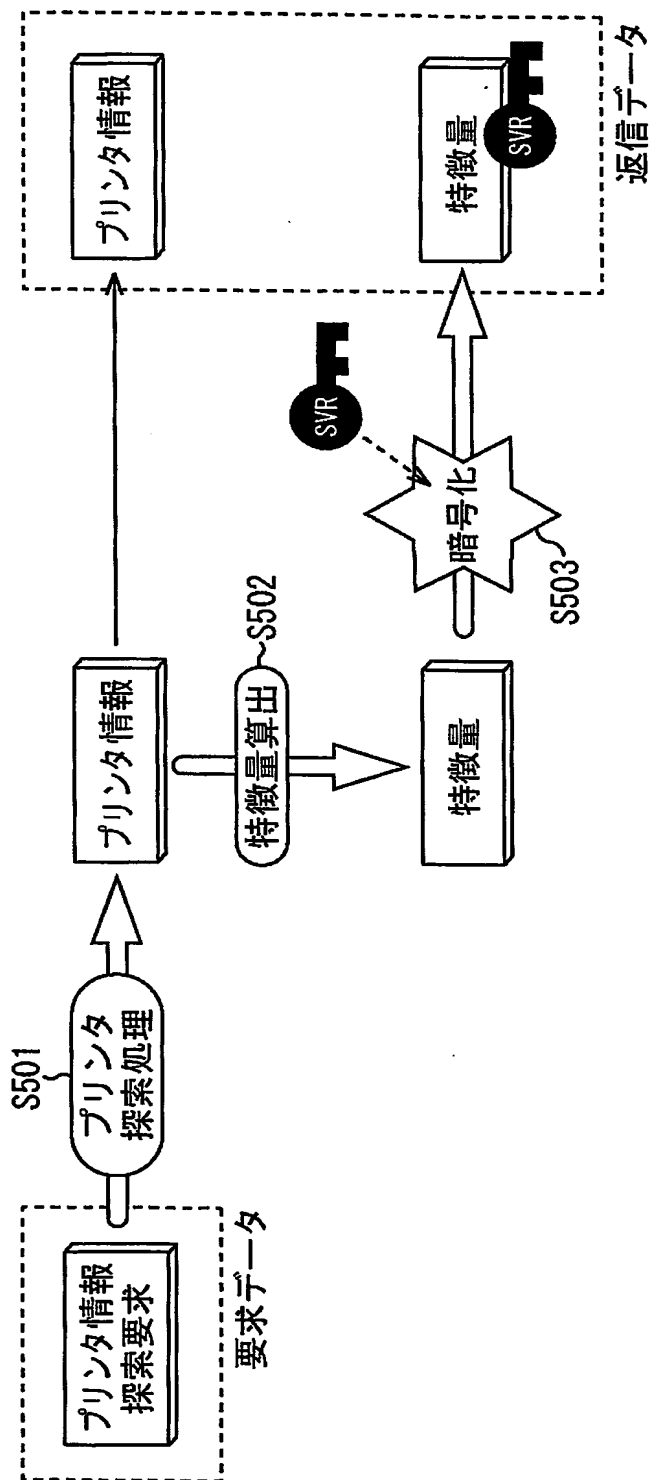
【図 13】



【図 14】

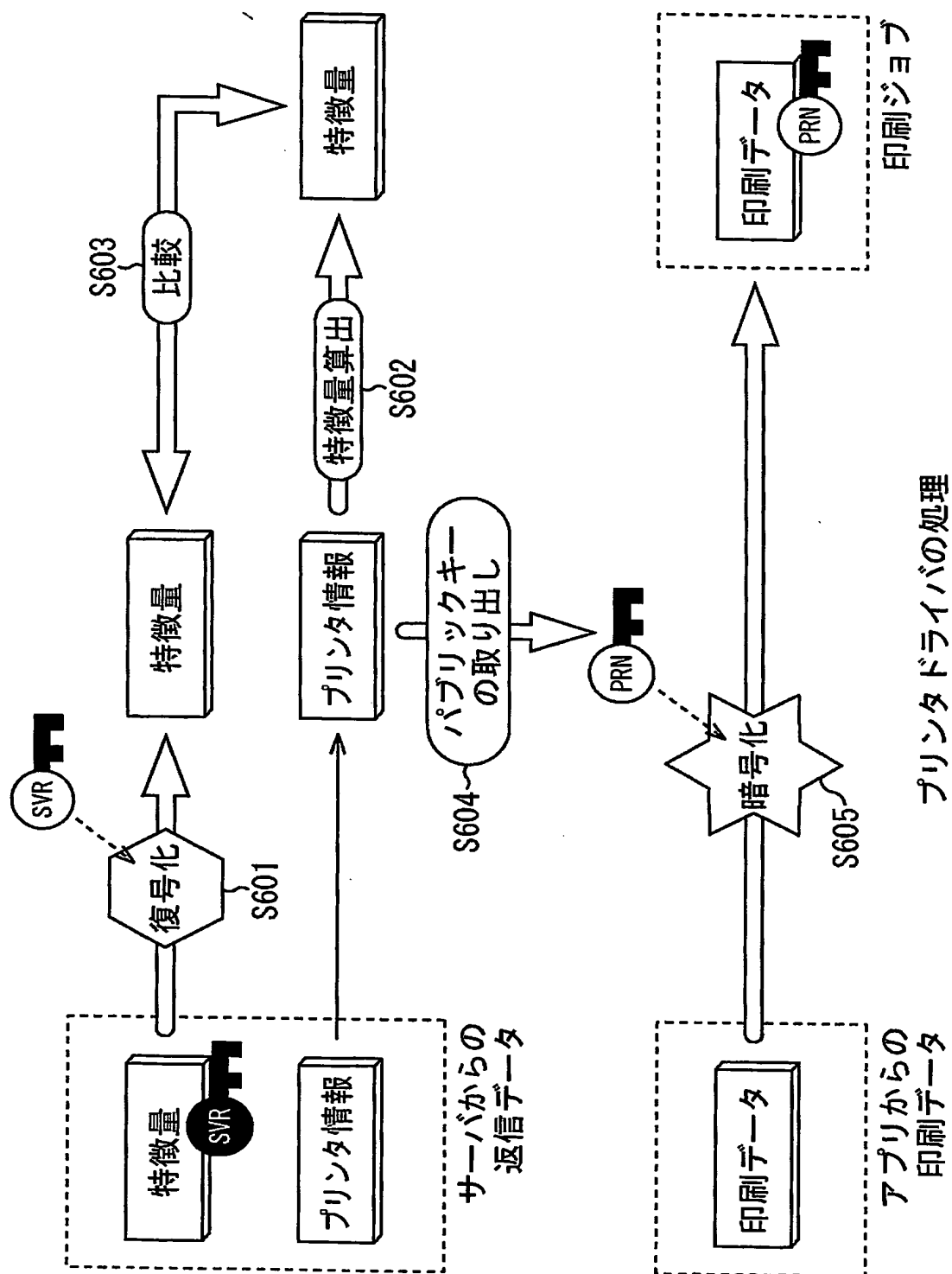


【図15】

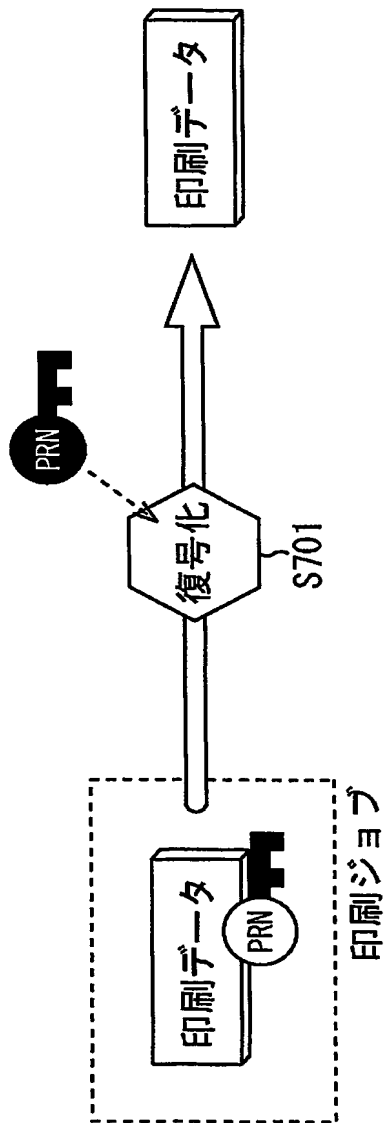


サーバの処理

【図16】

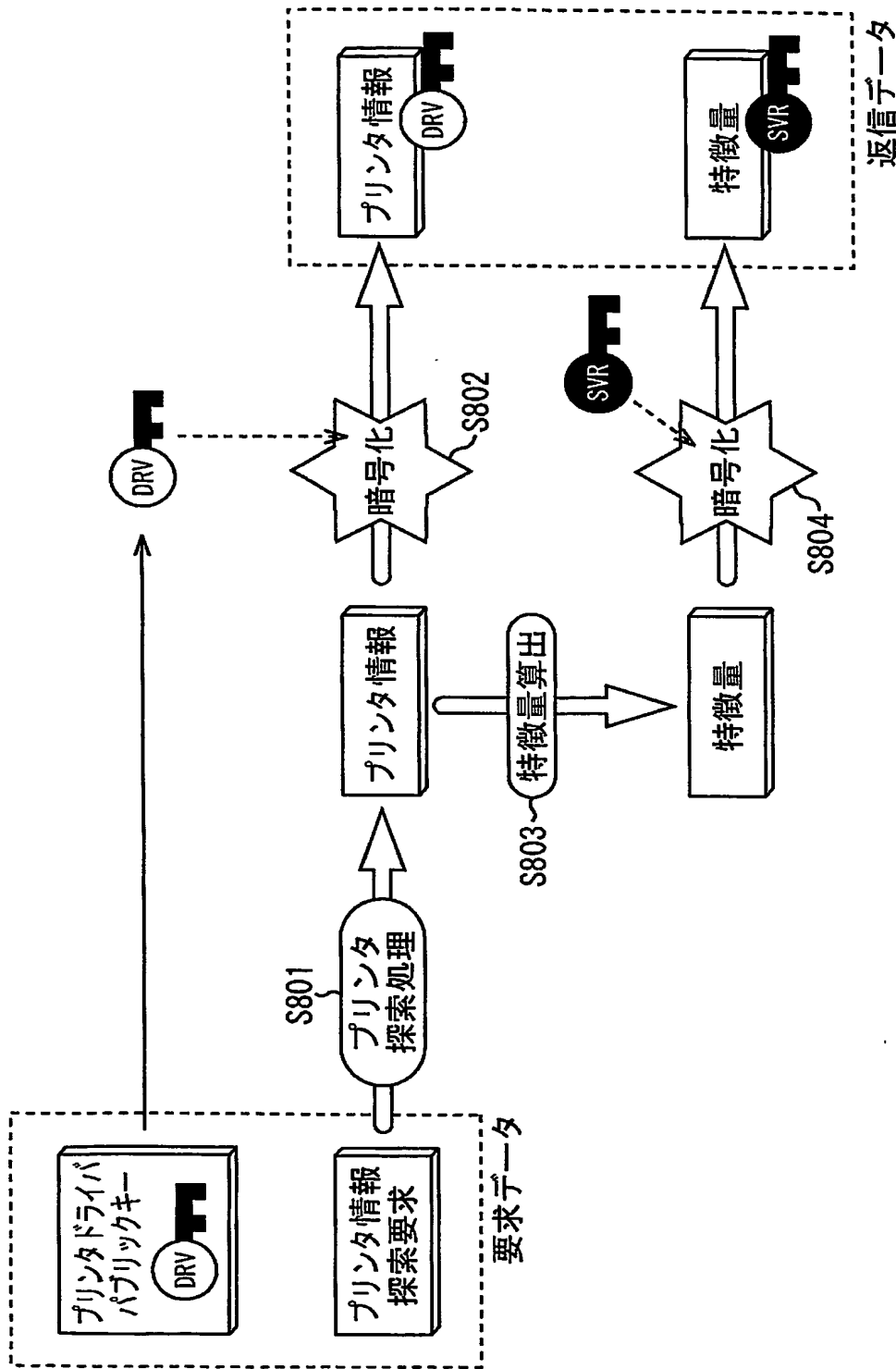


【図17】



プリンタの処理

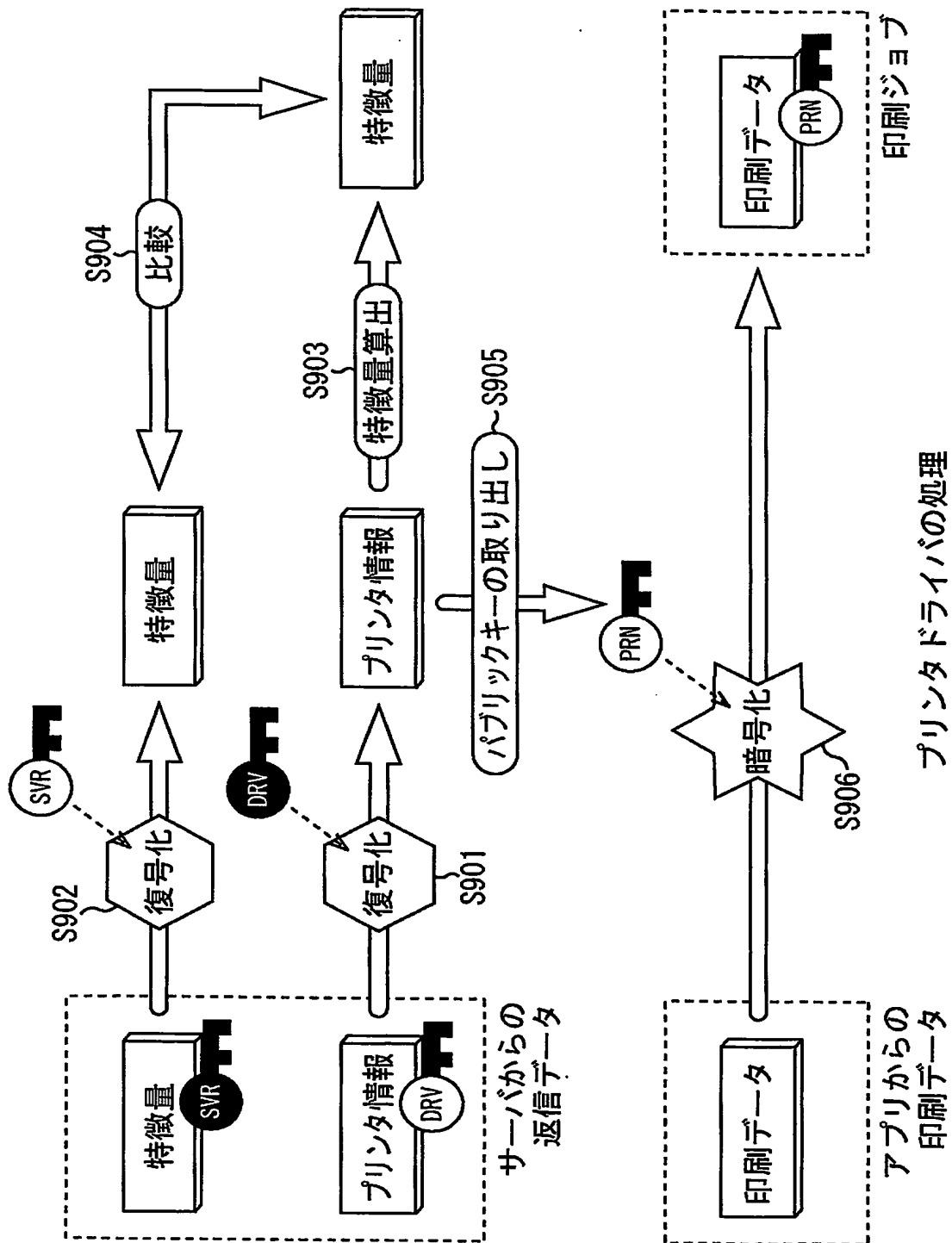
【図 18】



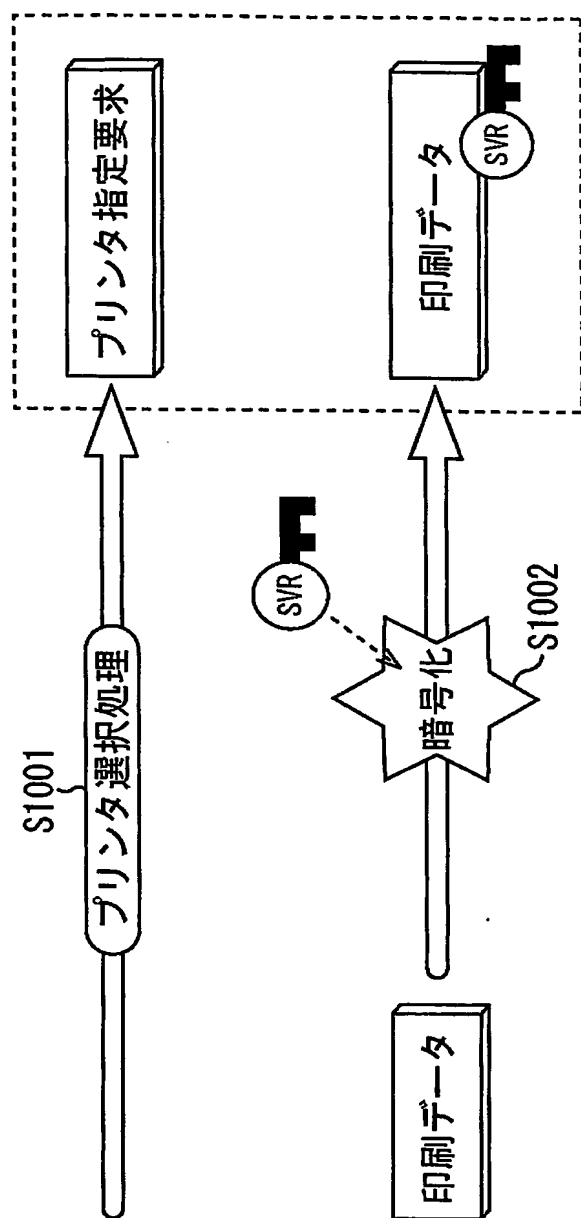
サーバの処理



【図 19】

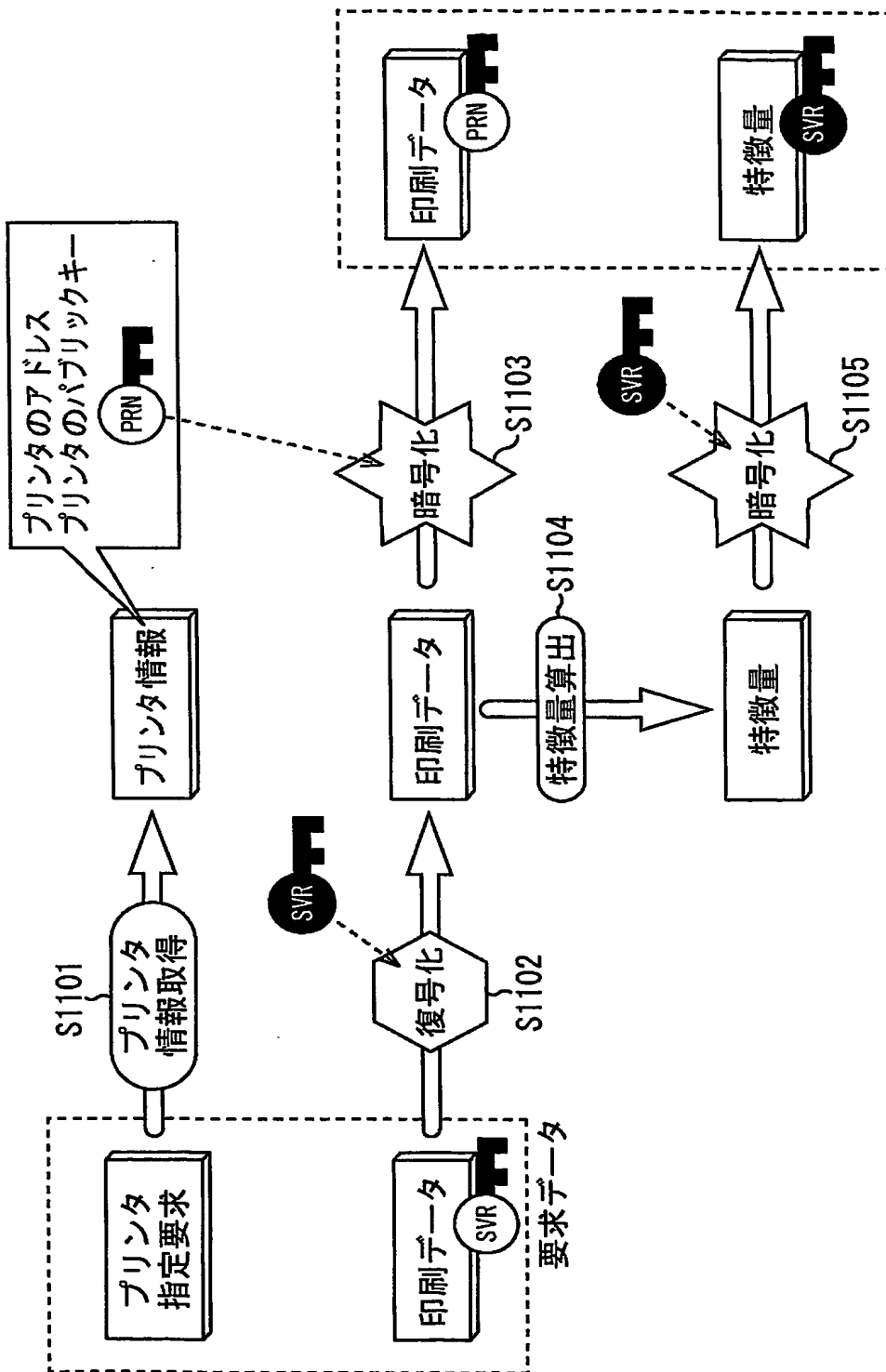


【図 20】



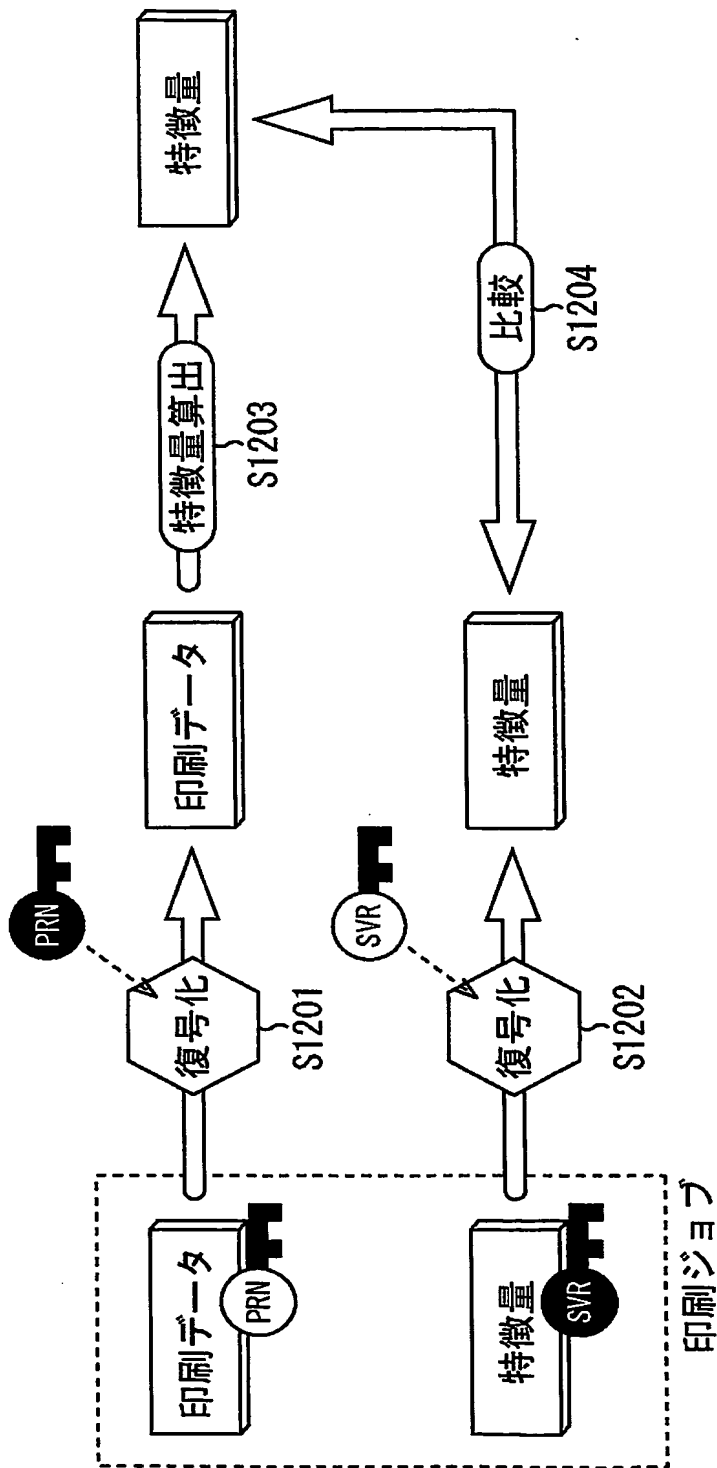
プリンタドライバの処理

【図 2 1】



## サーバの処理

【図 22】



プリンタの処理

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ネットワークやインターネットを経由して印刷を行なう際に、印刷データが盗み取られたとしても、前記盗み取られた印刷データが第三者に利用されてしまうことを可及的に防止することができるようにする。

【解決手段】 ホストコンピュータ3000のプリンタドライバは、アプリケーションから印刷要求を受けて印刷データを受け取ると、その印刷データを送信先のプリンタ1500のパブリックキーで暗号化してプリンタ1500に送信し、プリンタ1500が、受信した印刷ジョブ中の印刷データをプライベートキーで復号化して印刷データを取得するようにすることにより、他のプリンタでは印刷データを復号化することができないようにして、たとえネットワーク100上で印刷データを盗み取られたとしても、その印刷データが他のプリンタで印刷されてしまうことを防止できるようにする。

【選択図】 図1

特願 2 0 0 2 - 2 2 8 9 5 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 0 0 1 0 0 7 ]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 3 0 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都大田区下丸子 3 丁目 3 0 番 2 号

氏 名

キャノン株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**